

## FZ400R

話題のスーパースポーツ2機種  
いま発進!

## RZV500R

新発売 **ACTIVE** アクティブ  
**SPORTS**







400cc.スポーツ市場に押しよせるレーシー志向の波に  
 応えて新登場のFZ400Rは、  
 フォーミュラⅢの世界をその  
 ままストリートに再現。  
 ロードからサーキットまで、  
 走りのステージを無限に広  
 げる、4サイクル・ピュア  
 スーパースポーツです。

全身フォーミュラⅢ感覚  
 4サイクル・ピュアスーパースポーツ  
**FZ400R** 新登場!

●標準現金価格：¥598,000 (北海道、沖縄を除く)  
 ●カラー：シルキーホワイト



■FZ400Rの仕様諸元

●全長2025mm ●全幅690mm ●全高1145mm ●シート高785mm ●軸間距離1385mm ●最低地上高145mm ●乾燥重量165kg ●舗装平  
 坦路燃費55km/ℓ (60km/h) ●登坂能力28° ●最小回転半径3.2m ●制動停止距離14m (50km/h) ●4サイクル・水冷・D O H  
 Q・16バルブ・並列4気筒・399cc ●内径×行程54×43.6mm ●圧縮比11.5 ●最高出力59PS/12000rpm ●最大トルク3.7kg-m/10000  
 rpm ●始動方式セル ●潤滑方式強制圧送ウエットサンプ ●ラジエーター容量2.3ℓ ●エレメント不織式 ●燃料タンク容量  
 18ℓ ●キャブレターB S 30 (三国) ●点火方式フルトランジスタ ●点火プラグD 8 E A (NGK) ●バッテリー12V 12A H  
 ●1次減速(比) チェーン、ギヤ(2.849) ●2次減速(比) チェーン(2.875) ●クラッチ湿式多板 ●変速機リターン式6段  
 ●変速比①2.733②1.947③1.545④1.240⑤1.074⑥0.931 ●フレーム高張力鋼管ダブルクレードル ●キャスト26" ●トレ  
 ール101mm ●タイヤ(前)100/90-16 54H (後)120/80-18 62H ●ブレーキ(前)油圧式ダブルディスク (後)油圧式シング  
 ルディスク ●ディスク有効径(前)235mm (後)214mm ●緩衝装置(前)オイルダンパー+エア+コイルスプリング (後)オ  
 イルダンパー+コイルスプリング ●ホイールトラベル(前)140mm (後)102mm ●ヘッドランプ12V35W、35W (ハロゲン) ●  
 テールランプ12V 8 W ●ストップランプ12V 27W ●フラッシュャーランプ12V 27W ●各種パイロットランプ類12V 3.4W





より。RZV500Rは5月15日より)

**59** P.S.、クラス最高のハイパワーを発揮する4サイクル、水冷・DOHC・4気筒、16バルブ・エンジン。Y.I.C.S.でハイパワーと低燃費(55km/ℓ)を両立。このハイパワーを支える水冷システムは、大容量クロスフロータイプ新型アルミラジエター、サーモスタット、電動ファン装備。メンテナンスフリーのフルトランジスタ点火。クロスレシオ6速ミッション。

**FⅢ** 感覚のエキゾースト・サウンドを生み出す4into1集合マフラーは、高速性能のアップや軽量化にも効果を発揮。

**角** パイプ・ワイドフレームで剛性をアップ。51°の深いバンク角、1385mmのショートホイールトラベルの採用で、レーサーゆずりのクイックな操縦性を実現。レーシーな雰囲気強調したこのフレームは、メインフレーム・リヤフレーム別体式。左右ともダウンチューブをボルトオン・タイプとして整備性を向上。

**セミ・エア** 式のフロントフォークは、バリアブルダンパーを装備して理想的なサスペンションの特性を発揮。エアロダイナミクス効果の高いパワーフェンダー、アルミスタビライザーも装備。

**リヤ** には、路面追いつきにすぐれたニューリンク式モノクロス・サスペンションを装備。スプリング・イニシャル調整式。スイングアームもアルミ角パイプを採用してパネ下重量を軽減し、操縦性と乗り心地を向上。

**対向** ビストンキャリパー、スロットディスクの油圧式ディスクブレーキをフロントにダブル、リヤにシングルで装備して、走行性能にふさわしい強力なストッピングパワーを発揮。

**ブレ** ーキペダルとチェンジペダルは、ロードレーサーと同じフットレスト同軸タイプでレーシングムードをアップ。

**16** インチのフロントは100/90、18インチのリヤは120/80とともに偏平チューブレスタイヤ。しかも高速許容範囲の高いHグレードタイプ。またフロントの16インチ化によって、軽快なハンドリング、クイックな操縦性を確保。

**0.3** を切るという、きわめてハイレベルなCdA値(空気抵抗値)のフレームマウント・ハーフフェアリングを標準装備。

**35W/35W×2** 明るいハロゲンランプをデュアルでセットしたヘッドランプで、夜間走行の安全性とともに耐久レーサーイメージをアップ。

- フェアリングマウントの見やすいメーターパネル
- 被視認性にすぐれたスモークレンズ、2球式大型テールランプ
- レーシー感覚のアルミ鍛造セパレートハンドル
- 18ℓの大容量フューエルタンク

## FZ400R





# 題のスーパースポーツ2機種、いま発進

最新テクノロジーを惜しみなく注ぎ込んで開発したスーパースポーツ2モデル——FZ400R、RZV500R——いよいよ新発売です。(FZ400Rは、5月25日)



ットは、スプリング・イニシャル荷重と減衰力の調整可能。リヤアームも軽量・高剛性のアルミ角パイプ。後端は角エンドとし剛性アップ、整備性も向上。

**空力** 特性にすぐれたフルフェアリングを装備して、高速走行安定性をアップ。

**ベンチ** レーテッド・ディスクブレーキをフロントにダブル、リヤにシングルで装備して、走行性能にあわせた強力なストップングパワーを発揮。いずれも、対向ピストンキャリパー、セミメタルパッドを採用。

**Hグレード** 前120/80-16インチ、後130/80-18インチの扁平チューブレスタイヤは、いずれも高速許容範囲の高いHグレードタイプ。

**タコ** メーター(電気式)をセンターに、左にスピードメーター、右に表示切替式の水温計/燃料計をセットした読みとりやすいメーターパネル。フレームマウントでハンドリングも軽快。

- 22ℓ大容量フューエルタンク
- レーシーなアルミサイレンサー
- 60W/55Wハロゲンヘッドランプ
- 被視認性の高い2球式テールランプ
- パワーフェンダー
- アルミ鍛造セパレートハンドル

## ■RZV500Rの仕様諸元

●全長2085mm ●全幅685mm ●全高1145mm ●シート高780mm ●軸間距離1375mm ●最低地上高145mm ●乾燥重量173kg ●舗装平坦路燃費31km/ℓ(60km/h) ●最小回転半径3.1m ●制動停止距離15m(50km/h) ●2サイクル・水冷・リードバルブ・V型4気筒・499cc ●内径×行程56.4×50mm ●圧縮比6.6 ●最高出力64PS/8500rpm ●最大トルク5.7kg-m/7500rpm ●始動方式キック ●潤滑方式オートループ ●オイルタンク容量2ℓ ●エレメント湿式ウレタンフォーム ●燃料タンク容量22ℓ ●キャブレターV M26 S S(三国) ●点火方式C D I ●点火プラグB R 8 H S(NGK) ●バッテリー容量12V 5.5A ●1次減速(比)ギヤ(2.225) ●2次減速(比)チェーン(2.533) ●クラッチ形式湿式多板 ●変速機リターン式6段 ●変速比①2.400②1.684③1.363④1.166⑤1.043⑥0.958 ●フレーム形式アルミ角パイプ・ダブルクレードル ●キャスト26" ●トレール95mm ●タイヤ(前)120/80-16 60H(後)130/80-18 66H ●ブレーキ(前)油圧式ダブルディスク(後)油圧式シングルディスク ●緩衝装置(前)オイルダンパー+エア+コイルスプリング(後)ガス+オイルダンパー+コイルスプリング ●ホイールトラベル(前)140mm(後)120mm ●ヘッドランプ12V 60W/55W(ハロゲン) ●テールランプ12V 8W ●ストップランプ12V 27W ●フラッシュランプ12V 27W ●各種パイロットランプ類12V 3.4W

## FZ400R RZV500R

商品ガイドをご活用ください

FZ400R、RZV500Rそれぞれのスムーズな市場導入のために開発背景、商品特徴、拡販の手引き、サービスガイド等のすべてを一冊にまとめた「FZ400R商品ガイド」「RZV500R商品ガイド」も用意しました。あわせてご参照ください。



水冷・V4  
2サイクル・ピュアスーパースポーツ  
**RZV500R**

●標準現金価格：¥ 825,000 (北海道、沖縄を除く) ●カラー：シルキーホワイト

モーターサイクルはここまでスピーディに、コントロールに、セフティに、なれる。マニアの限りない夢をかたちにしたRZV500Rは、“キング、ケニー・レプリカ。世界GPのウィニングマシンYZR500から生まれた2サイクル・ピュアスーパースポーツです。



**V4** YZR直系の技術をベースに新開発のエンジンは、市販車では世界初の2サイクル・水冷・V型4気筒。Y.P.V.S.、電子進角式CDI点火、パワージェット付強制開閉式キャブレター、Y.P.V.S.連動式オートループなどの採用で、64馬力のハイパワーとシャープなスロットル・レスポンスを発揮。クロスレシオ6速ミッションもYZR同様の強制潤滑式。ハイパワーを支える信頼の水冷システムは、軽量アルミ・シングルコアタイプ。電動ファン、サーモスタット装備。

**1375mm & 52°** スリムでコンパクトなV4エンジンの採用で実現した250ccと同等の1375mmというショートホイールベースと52°の深いバンク角で、抜群の運動性能と軽快なハンドリング特性を発揮。

**アルミ** 角型ワイドフレームで軽量化と高剛化を促進し、操縦安定性をアップ。右ダウンチューブはボルトオン式で整備性も向上。

**セミ・エア** 式の前フォークは、好みに応じて減衰力調整可能なダンピングアジャスター付。アルミスタビライザーで剛性アップ。急制動時の沈み込みを押えるアジャスタブル・アンチダイブ機構も装備。

**ニューリンク** 式モノクロス・サスペンションは、エンジンのま下に水平にクッションユニットを置き、重量マスの集中化と低重心化を促進した画期的な新タイプ。クッションユニ



# ACTIVE アクティブ SPORTS | アクティブにスポーツバージョン登場

●標準現金価格：¥164,000（北海道、沖縄を除く）

5.7馬力のパワフルエンジンを搭載して、定評の走りを一段とダイナミックに、イメージもグリーンとフレッシュ・アップしたアクティブ・スポーツが登場します。



**大** 型化したリヤ・プロテクターとサイド・プロテクター

**タ** コメーター装備のメーターパネルが、スポーツところをかきたてる

**デ** ザインを一新、若々しい軽快感を強調したビルトインタイプのフラッシャー&テールランプ

**フ** ェンダー・プロテクターも大型化して、一層精悍に

**ガ** ス・クッションは、このクラスでアクティブだけの高級仕様。フロントには、メカニカル・アンチダイブ機構も装備

**新** 鮮なカラーリングも、スポーツ感覚いっぱい



**5.7** 馬力にパワーアップした7ポートトルクインダクション・エンジンとトルクカム付ニューパワフルマチックが生み出す、胸のすくダッシュ

## ●カラー

パーニングレッド



クリーミーホワイト



グリタリングブラック



## ■アクティブスポーツの主な仕様諸元

●全長1755mm ●全幅665mm ●全高1040mm ●シート高720mm ●軸間距離1170mm ●最低地上高100mm ●乾燥重量62kg ●舗装平坦路燃費76km/ℓ (30km/h) ●登坂能力20° ●最小回転半径1.7m ●制動停止距離3.5m (20km/h) ●2サイクル・ピストンリードバルブ・単気筒・49cc ●圧縮比7.0 ●最高出力5.7PS/7000rpm ●最大トルク0.62kg-m/6000rpm ●始動方式セル・キック式 ●点火方式CDI ●燃料タンク容量5.6ℓ ●2次減速Vベルト無段変速 ●タイヤ3.00-10-2PR(前後とも) ●緩衝装置ガス+オイルダンパー+コイルスプリング(前後とも) ●ヘッドランプ12V 30W ハロゲン ●テールランプ12V 5W ●ストップランプ12V 18W

# 特集 一話題全開、ニューヤマハ



とくに、計6日間にわたる「体感  
試乗会」で、社長さん、従業員さん、  
ヤマハセールスチームの延べ180  
0名以上が、これらニューモデルに  
試乗。その体感に裏づけられたホッ  
トなセールストークが、いま店頭で  
お客さまの話題をさらっているこ  
ろです。

XT200、DT200Rの登場  
で口火を切った84ヤマハのニューモ  
デル・フィーバーは、RZ250  
350RR、そしてチャンプの発売  
で一気に加速され、いよいよFN4  
00R、RZV500Rのデビュー  
でクライマックスを迎えようとして  
います。



一方、4月14、15日には、春の恒  
例・全国統一展示試乗会「ヤマハ  
ち日バイクデパート」が各地で開か  
れ、待望のニューモデルを「見て、  
触れて、乗って」みようという熱心  
なお客さままで大きなにぎわいをみせ  
ていました。



そこで、今月はいま話題全開の84  
ニューモデルにスポットを当ててみ  
ました。この高まるムードは、春か  
ら夏への商戦で、着実に実を結びつ  
つあるところです。お店でも、拡販  
よろしくおねがいいたします。





# ヤマハいち日バイクデパート

“試乗体験”にもとづいた積極的なアプローチで全国的に広がっている“成約の輪”



今年も各地で大盛況の「ヤマハいち日バイクデパート」。ヤングが、アダルトが、カップルが、ファミリーが、つぎつぎに訪れては、待望のニューモデルをじっくりと眺め、触わり、走らせていきます……そんな「いち日バイクデパート」の1日を、ヤマハ北東京パーツセンター会場から、誌上中継でお送りしましょう。いま、市場のムードは最高潮なのです。

10:00 AM

会場スタッフのミーティング開始



取材したこの日は、土曜日だった。午後からが勝負と読んだスタッフは、午前10時までに会場のセッティングを終了。まずはスタッフ・ミーティングを開いて、この日の役割分担を再チェック。

10:30 AM

お客さまが来場し始める

雑誌広告を見て駆けつけたお客さまもいれば、通りすがりに立ち寄ったお客さまもいる。雑誌広告を見た人の大半は、RZ250RRやDT200Rの試乗がお目当てのヤング客というところ。



11:00 AM

早くも試乗コーナーにはお客さまの列



「ライディング・ポジションがピッタリ決まっていますね。1・5kmぐらいしか走れなかったけど3速までしか入れられなかったけど、RRはRと比べてかなりパワーが上った感じ。お金があれば、即、手に入れちゃうんだけどね。」(RZ250RRを試乗に来た高木賢一郎さん(25))

11:30 AM

DT200Rを前にして商談が進む

YSP成増・板橋一男社長 どうでしたか？ DT200Rの走行フィーリングは。石坂明さん(19)(学生/練馬区) 林道を走りたくて身体がウズウズしているんですけど、最高ですね。DT200Rは。板橋社長 どういう点が入ったのかな？ 石坂さん 実は、2サイクルって今日が初めてなんです。話には聞いていましたけど、



D T 200 R を前に話が弾む。左が板橋社長

12:00 AM

若いカップルはチャンプのタッチシユカに脱帽

早稲田大学に通っている友人から、「いち日バイクデパート」の開催を聞いて駆けつけた下川亮二さん(21)と池田宏美さん(22)(ともに学生)のお目当ては、新発売のチャンプ。さっそく試乗をして——池田さん 下川さんから借りて乗るパツソルIIも速いけど、チャンプの出足はそれ以上でビックリしちゃいました。下川さん 加速感がスゴいね。僕はスポーツバイクにも乗っているけど、大袈裟じゃなくってあの出足の良さには驚いちゃったよ。



# 特集：話題全開、ニューヤマハ



池田さん それにとっても静かでしょう。まるでモーターで走っているみたい。最初はあんまりスムーズすぎるんでびっくり。カラーリングも今までになくステキじゃない。下川さん フロントタイヤが小さいので余計、小まわりがきくみたい。最初オヤツって思ったけど走るとすぐ慣れちゃって、その独特のハンドリングが面白くなっちゃった。スポーツ感覚があつて、すごく気に入ったよ。

1:08 PM

用品を買いに来た旧RZのお客さまが、RRを試乗してさつそく成約

パーツセンターを会場としたこの「いち日バイクデパート」には、催しを知らずに用品や部品を買いに来たバイク・ユーズーもかなり多かったようです。ここに紹介する羽芝利明さん(18) (学生/練馬区) もそんなおひとり。羽芝さんはせっかくの機会だからとRZ250RRを試乗。その場に居合わせた西牧商会、西牧敏治副社長の巧みなアプローチで、さつそく旧型RZの下取りを条件に成約しました。羽芝さん トルクの谷がなくて、とても乗りやすくなっている。コーナーでの立ち上りもはっきりパワーがついてくる。旧型RZに乗っていますが、ライディングポジションもかなり低くなっている。全体的に軽いのもいい。

RRの納入日を決める西牧副社長(右)と羽芝さん



乗り比べちゃったら、もう気持ちはRRに乗り移っちゃいましたよ。

西牧副社長 シーツとお客さんの視線を追っていくと、どこ何に関心があるのかがわかるんですよ。やっぱりバイクは試乗してもらいたい、ジックリと性能を確かめてもらってから商談へ入るのが自然。羽芝さんとは、あとは下取りの具体的な条件をお話するだけです。

1:30 PM

ビデオコーナーでケニ一の走りを見る



学校を終えた学生のお客さまが続々と詰めかけ、会場は午前と打って違って活気がみ

2:08 PM

待方に待って、みづやへ試乗だ!



なざる。ビデオコーナーでは、ケニ一の走りに見入る若いお客さまの姿も。

さすがに、午後になると試乗を希望するお客さまがズラリ。なかでも人気のRZ250RRに乗るには、長時間の待ち時間が必要となります。「アクセルをちょこっと開けるだけで、回転がなめらかになってくる。旧タイプよりいちだんと乗りやすくなったみたいですね。走行安定性もいいし、ハンドルもすごく軽い。さすが、一番2サイクルの実績があるヤマハならではのバイクですね。今のバイクと買い替えること、真剣に考えます」とは、

3:08 PM

さすが!

RZV500Rは王者の風格

すでに二輪専門誌の紙上では、RZV500RやFZ400Rの発売の噂が飛び交っているが、この「いち日バイクデパート」でもやはりそんな会話は会場のあちこちで聞くことができた。

RZ250RRの試乗に駆けつけた中村康高さん(19) (学生) も、RZV500Rの動向が気になる様子。この会場に同行したYSP阿佐ヶ谷の浜崎完治社長と展示車を前にしてもっぱらRZV500Rの話に集中していました。

中村さん ウワァーッ、これが噂さのRZV500Rですね。ホントに日本でも発売されるんですね。

浜崎社長 正式発表はまだだけど、もうすぐ発売されることは確かだね。

中村さん シート下のチャンバーのふくらみが、いかにもレーサーっぽくて最高。何馬力位あるのかな。

浜崎社長 60馬力以上は確か。スタイルも、性能も、YZRに限りなく近い。歴史に残るバイクだから価値は大きいよ。

中村さん だけど、ホントに僕なんかでも乗れるんだろうか。

浜崎社長 パワーがあるとはいえ、乗りやすさはRZ250Rと変わらないよ。それに、ウチにはYRSのインストラクターがいるから、みっちり基本から教えてあげますよ。

中村さん よし、それならRZV500Rを絶対買うぞ。社長、予約しますから、発売されたらすぐに連絡して下さいね。

RZV500Rを囲んで、左から浜崎社長、中村さん、YSP阿佐ヶ谷スタッフの野尻さん

# 実感、体感、この走り！ ヤマハスポーツ店84モデル体感試乗会

3回にわたるヤマハコース（静岡県袋井市）での試乗会を通じて、社長さん、従業員さん、ヤマハセールスチーム……のべ1800名以上の人びとが84ヤマハ・ニューモデルを試乗。その体験にもとづいたセールストークが、いま店頭の話を集めて、春のスポーツバイク商戦を活気つけています。

「体感的セールストークでお客さまをつかもう」を合言葉に、この春ヤマハでは84年ニューモデルの試乗会を相ついで開催してきましたが、販売店社長さんを対象とした「新商品説明会」(3月7、8日)、ヤマハセールスチームの「体感試乗会」(3月11、18日)につづいて4月4日、5日の両日には販売店従業員さんを対象に「ヤマハスポーツ店84モデル体感試乗会」が開かれました。

特に今回は、店頭で毎日直接お客さまと接するお店のセールス担当、サービスマン担当の方々がたに、FZ400RやRZV500Rをはじめとする話題のヤマハニューモデルをこ試乗いただき、乗らなければ得られない貴重な体験データを収集していただき、とあつて会場も熱っぽい雰囲気につつまれ、用意された試乗車は文字通りのフル回転。参加されたみなさんも「お客さまの心をひきつける確かな

手応えを感じとることができた」とどの顔も満足気です。

最近のスポーツバイクユーザーは、年令的にも近く、同じようにバイクに乗り、しかも技術・メカニズムに精通している若い従業員さんのまわりに友だち感覚で集まってくる傾向が顕著ですが、それだけにこの体感試乗会の成果の活用が、大きな期待を集めているのです。



「お客さまと話しても自分の体験は強いですね。事実だから説得力がある、今日は貴重な体験をしました。販売としてみたらFZ400Rが魅力的。自分じやRZVの加速にホレ込んだりしましたけど。この次はお客さまに体感していただく番。今年もオフラインと近くの販売店さんと協力してやりたいです」  
●溝口茂樹社長（ミクススポーツクラブ／大阪府東大阪市）



「RZVやダブルRに乗って、2サイクルのヤマハを強烈に再認識しました。FZ400Rもいまのヤング指向にピッタリですね。店に帰ったらこの試乗会の雰囲気と、ニューモデルの生の情報をお客さまに届けたい。どれをとっても走る、しかもエンジンひとつひとつに個性がある、ヤマハのスポーツバイクはぜひ体感して欲しいですね、お客さんにも」  
●徳永敏彦さん（オオツヤ・大津競三社長／大阪府堺市）



「ダブルRは、フレームマウントのカウルになって横風にもつよくなってるし、タイヤもグレイドアップして安定感が増してる、エンジンの吹上がりもシャープだし、2サイクル・クォーターの中じゃ、最高におもしろいし、完成されたマシンですね。これも、この試乗会がなければつかめたか、どうか……」  
●元相盛一郎社長（モトイネレーシング／大阪府堺市）

「自分が気に入ったバイクしかお客さまには勧めにくいですよ。今日は、どれも気に入





「今日、試乗のおかげで、お客さまに色んなこと聞かれても自信を持って答えられる。カタログに書いてあること話しても、お客さまはそんなことづくに知ってるものね。でもRRの完成されたっていう感じ、フレームマウントカウルの安定感なんかのすばらしさは、乗った人でないね」

●大重武文さん（野崎輪業・野崎精造社長／大阪府枚方市）



「すごく帰って伝えたいほどFZ400Rに感激しました。吹き上がりの良さ、加速感は今までもどこにもなかったものです。店ではサービスマン担当なので、こうした試乗データをだいたいしてらるんです。レーシングチームもあるので、FZでFIIIレースもやりたいです」

「展示会をやるつもりなので、そこで今日の体験をセールストークに生かします。特にFZ400Rは、噂どおりのパワー、噂どりの加速感でしたしね。乗ってきたよ、というだけで、お客さまの受けとめかたはまったくちがう。よい体験でした」

●野上理二社長（モトブラザノガミ／石川県金沢市）



「契約から納車までの間、お客さまへの中間情報」として今日の体験は、最高だと思えます。テストコースの話などを交えて試乗感をお客さまに早く伝えたいですね。信じられないほど素直で、スムーズなRZV500Rの走りっぷりなんかをです」

●小林 肇さん（バイクショップピープル・社茂夫社長／大阪府寝屋川市）



「展示会をやるつもりなので、そこで今日の体験をセールストークに生かします。特にFZ400Rは、噂どおりのパワー、噂どりの加速感でしたしね。乗ってきたよ、というだけで、お客さまの受けとめかたはまったくちがう。よい体験でした」

●野上理二社長（モトブラザノガミ／石川県金沢市）



「展示会をやるつもりなので、そこで今日の体験をセールストークに生かします。特にFZ400Rは、噂どおりのパワー、噂どりの加速感でしたしね。乗ってきたよ、というだけで、お客さまの受けとめかたはまったくちがう。よい体験でした」

●野上理二社長（モトブラザノガミ／石川県金沢市）

# ここに注目!

# FZ400R & RZV500R

発売はるか以前から噂が噂を呼んで、お客さまの関心もエスカレートの一途をたどってきたFZ400RとRZV500R。最後はこの'84年2大ニューモデルの発売直前話題集。なお、販売店従業員さんのインプレッションは、ヤマハコースでの体感試乗会の際におねがいましたものです。

CDA値……耳なれぬ名前だが、これは空気抵抗の大きさを表す数値。これが小さいほど、抵抗も小さいわけで、FZ400RやRZV500Rでは、いずれも0.3以下。もちろんこれは、市販モデルでは最小クラスで、レーシングマシンに迫るもの。これまでのフェアリングの多くが、ウィンドプロテクション効果を第一に考えて設計されているのに、FZとRZVではエアロダイナミクス効果を優先しているため、これが可能となった。また、走行中のフロントの揚力(浮き上がりさせようとすると)を極力抑さえ、前後の重量配分の変化を防止するために、空力中心点を可能な限り下げているのも特徴。操安性の追求は、こうしたレーシングマシンなみのレベルにまで及んでいる。

## ワンポイント・セールストーク

すごくコンパクトにまとまっているな、というのがFZ400Rにまたがっての私の第一印象です。ハンドルのポジションもしくりしているし、シート形状もあるのせいで、うけど足着き性がすくいい。セル一発で始動。4インントゥ1集合マフラーからの独特の排気音は、耳に気分よく響いてきます。そして特に、エンジンのメカノイズ音がほとんど聞こえないのが、この4サイクル・水冷・パワフォアの信頼感を感じさせてくれますね。軽いクラッチを切ってギヤをローに、2000回転でクラッチをミート、走り出すと車重は、まったく感じられません。ヤマハコースの第1コーナーまではアツという間。一般にこのクラスのマシンだと、コーナーに突っ込むときは、ある程度の重量感があった方が誰れにでも安心できると思うので



## FZ400R

販売店従業員さんのインプレッション  
レスポンスは、まちがいがなくクラス一!  
イメージに似ぬ、乗りやすさ

原川武さん(トムキヤット清水店/静岡県清水市)

ですが、その点でもこのFZ400Rのコーナーでの重量感は、とつても好感が持てますね。アルミフレームに固執しなくて、かえってよい結果が得られたんだと思いますよ。集合マフラーを採用したこともあるのでしようけど、4000回転から10000回転までのエンジンの吹き上がりは、それこそ、一気。谷間なんてまったくないし、まちがいはなく、このクラスではナンバーワンですね。

逆に、3000回転

以下の低速でもとつてもねばっこさがある。最近の400ccの特

にレーシーなモデルは、エンジンの特性もかなりピーキーになって、乗りやすさという点が薄れているようなモデルもありますけど、このFZ400Rの、ねばっこさは、特筆ものの。これなら混雑した街乗りもまったく平気ですね。

足まわりもすくいい。とくに印象に残っているのがグリップ感を体で感じとれるリヤタイヤです。120の80ですから、やはり、80パーセントの偏平率というのはいい。見た目にもアピール性がありますよね。ヤマハコースをわずか数周のインプレッ



ョンですけれど、結論として言えることは、すべてフォーミュラIIIマシンの感覚でまとめられていますけど、乗りやすさ、扱いやすさというの、外観から想像できないほどすばらしい。その意味では、まったくの初心者の人でも、もちろん女性ライダーでも、安心して勧められる幅広さを持ったバイクですね。FZ400Rというのは。





# RZV500R

夢のマシンが、いよいよ発売されるのでヒツクリーそれが私のRZV500Rに対する偽らざる感想です。

それとはかく、実際にマシンにまたがってみると、ほどよい重量感がまず感じられる。

エンジンがかけると、とにかく静かです。クラッチを握ってギヤをローに。シフトのタッチは、RZ-Rと似ているみたい。そして、このまま回転を少しあげると独特の振動が伝わってきます。これまで経験したことのない2サイクル・4気筒のバイブレーションですから、これは感激！

2000回転でクラッチをミート。想像していたよりもっともスムーズな発進です。そして2000回転からの吹きあがり、文字通り「一直線」。思い切り引っぱって第1コーナーへ。ヤマハコースの第1コーナーの奥は複合カーブになってますよね。ここでマシンを寝かせたままブレーキングしたんですけど、ブレーキのタッチの良さにびっくり。扱いやすいとか効きがいいとかいうより、ブレーキレバーを指で軽く操作しただけでブレーキのピストンがググッと作動している感覚が伝わってくるみたいなんです。この感

## 販売店従業員さんのインプレッション

### 外観からのイメージをそのまま体験できる理想のマシン

吉田道弘さん（YSP名古屋東店長／名古屋市天白区）



# FZ400R

## FZR400も F3レースで始動！

このFZ400Rの人気のマトは、いうまでもなくロードレース・フォーミュラIIIマシンの走りイメージを、そのままストリートに再現したこと。

そして、このFZ400Rのベースとなったのが、昨年の東京モーターショーに突如デビューして、ファンの話題を一手にさらったFZR400。XJ400Z/Z-1Sをパワーアップして完成したこのFZR400は、FZ400Rよりもひと足早く、全日本選手権レースで活動を開始して、注目を集めています。

フォーミュラIIIレースは、昨年までのノービスクラスに加えて、今シーズンから国際A、B級も新設され、年間10戦のシリーズ戦が組まれています。FZR400は、軽量級の大ベテラン江崎正選手（チームカナヤ）のライディングで、このシリーズ戦にフルエントリーが予定されています。

マシンは日ごとに煮詰められてきています。ベスト・セッティングまであと一歩。シリーズ後半戦に照準を定めていますので……と江崎選手もFZR400の戦力には、絶大の信頼を寄せています。

ちなみに、このFZR400は、XJ400Z/Z-1Sベースの水冷・4サイクル・DOHC・16バルブ・並列四気筒。65馬力以上、最高速度230km/h以上。アルミ角パイプフレーム、アルミタンク、アルミスイングアーム、マグネシウム・ブレーキキャリパー等の採用で車重140kg以下。ホイールはFZ400R同様フロント16インチ、リア18インチです。

### ワンポイント・セールストーク

鮮烈なパワーフィーリングも、FZ400R、RZV500Rの魅力だが、同時にレーシングマシンゆずりの卓越した操縦性もマニアの心をとらえずにはおかない大きなセールスポイントだ。

そして、このすばらしい運動性能を生み出しているのが、FZ400R・1385mm、RZV500R・1375mmという250ccなみのショートホイールベース。モーターサイクルの走行性能は、フレーム、サスペンション、タイヤなどの総合的なマッチングによって決定づけられるが、その中でも最大の要因となっているのはホイールベース。

このホイールベースが、ロングタイプだと直進安定性にすぐれたものとなるのに対して、ショートタイプだと旋回性や操縦性にすぐれたものとなる。

FZ400R、RZV500Rは、すぐれた走行安定性を確保しながら、このショートホイールベースで、クイックな運動性能、コーナリング性能を実現したのだ。ちなみにYZR500は、1400mm。

金谷秀夫選手のワンポイント・インプレッション

あの加速感こそ、まさにYZRゆずり



YZR500とRZV500Rの両方を走らせた人、といえれば世界でも数人。そんな一人、元ヤマハライダー・金谷秀夫選手のインプレッションは……

★もちろん、レーサーと一般モデルですから、完全に乗った感じはちがいます。ローギヤなども、RZVはかなり低くセッティングされていますね。

でも全体のフィードバックは相通じるものがある。同じ血が流れているというか。どこか？ といわれるとうまくいえますが、確実にいえるのはあの加速感。あれこそまちがいに、ヤマハ・レーシングマシンの流れをくむものです。



触は、ヘアピンでの突っ込みでも同じでした。これがレーサー・タッチついでうんでしょね。最終コーナーの立ち上がりでは3速でレックドゾーン近くまで。これで130km/hくらいだったでしょう。とにかくパンチがあるし、軽快な吹きあがりですね。

たしかに、このRZV500Rは、レーサーと同じフィードバックだと思います。しかしそれでいて一部のベテランにしか乗れないかといえれば決してそんなことはない。とっても乗りやすく、一般モデルとしての高い完成度を持つていると思います。外観から受ける雰囲気、そのまま体験できるバイクなんです。

# RZV500R

## RZVは「2サイクルのヤマハ」のシンボル・マシン!

★'60年代のヤマハ2サイクルモデルをこよなく愛するマニアたちのクラブ、YDSクラブのメンバーたちにとっても、いま話題のマトになっているのがRZV500R。

RZVは「モーターサイクルは2サイクル、そして、2サイクルはヤマハ」という彼らの一貫した主義のシンボルの存在でもあるからです。そんな想いを、同クラブの並木鷹男さんに語っていただきました。

★写真よりも実物の方が大きくて、ボリュームもあるんですね。でも、おどろいてまたがってみるとそのボリュームがウソのようにスリムでニグリップもきく。そして自然に両腕がハンドルを握っている感じです。フォルムが一番好きなのは、後方排気マフラーのために膨らんでいるシートの下の所。とってもナイーブな美しいラインだと思います。それにしても、このRZV500R登場の意義は、バイクファンにとって大変なものだと思います。2サイクル・ファンの憧れ、V

フォー」を現実のものとしてくれたのですから。4サイクル全盛で、2サイクル・スポーツの存在がきわめて薄くなりかけていた時に、水冷・2サイクルのRZVの大ヒットでファンの期待に応え、そして新しい2サイクルファンをつくり出した。そしてRZVはRRへと進化し、さらにその頂点モデルとしてRZV500Rが登場する……ヤマハらしい挑戦だと思われ、そこが好きなんです。私たちが大切にしている、YDSの心が、このRZVまで脈々とつながっているのですからね。

★もちろん、私も予約しました。販売店のご主人がすでに試乗していて「速いけど、扱いにくいジャジャ馬なんかじゃない。とっても乗りやすいよ」と言われて安心。早く乗りたくて……余談ですけど、3月のYDSクラブミーティングの際に、参加者名簿を置いてその中に所有車の記入欄を設けておいたんですけども「RZV500R」って記入した人が、何人かいた。やっぱり同じ思いなんだなって、嬉しくなっていました。



第2回YDSクラブミーティングでもRZV500Rは、関心のマト。(ヤマハマリーナ浜名湖での懇談会で)



THE WAY  
TO  
NEW YAMAHA

# スポーツレジャーの 世界を広げるヤマハ



自然とのまじわりを知るSLオフロードライディングスクール



昨年、スポーツランドSUGOで開催されたセタモトリング大会

限りなくスポーツレジャーの世界を広げるヤマハ。

そんなキャッチフレーズに象徴されるように、スポーツレジャーの普及は、ヤマハにとって重要な企業活動のひとつと考えられています。

陸に、海に、行動するレジャーの普及を通じて、人間性豊かな暮らしに貢献することが、ヤマハの変らぬ願いだからです。

人間が人間らしく生きるために必要な充実した余暇。ヤマハは、かずかずのスポーツレジャー用品の開発と、そのスポーツレジャーの普及活動によって、人びとの健康的なレジャーライフに奉仕しています。

実用はもとより、爽快なスポーツやホビー

の道具として世界中の人びとから愛されているモーターサイクル。雪国のアクティブなウインタースポーツ、スノーモビル。スリルあふれるレーシングカート。自然との豊かな交わりを育むボートやヨット……。

常に時宜を得た商品の開発を通じて、スポーツ愛好者を増やしていることは、ご承知のとおりです。

また、スポーツランドやマリーナなどスポーツ施設の建設、運営。各種のスポーツ行事の開催などを含めた総合的なスポーツレジャー活動を展開してきたことも、ヤマハの大きな特色です。

体系的なモータースポーツ普及活動だけを見て、昭和43年から全国規模で開催された

トレール教室をもって驚矢といえるでしょう。

オフロードをモーターサイクルで走る楽しさを広め、テクニクを指導したこのトレール教室は、ヤマハトレールの拡販とともに、モトクロス人口の増大に、はかり知れない役割を果たしてきました。そして、このトレール教室がルートとなって、今日SLオフロードライディングスクールが、全国で開催されているのです。

一方、ツーリングやオートキャンピングなどモーターサイクルによるレクリエーションを広めるヤマハスポーツ教室も、ひきつづいて開催され、モーターサイクルの用途を、レジャーへと拡大してきました。

トレール杯争奪モトクロス選手権シリーズやSLカートクラブの公認によるSLカートレースシリーズなども、スポーツレジャーへの参加の機会を広げた、ヤマハの活動の一環です。

そして、こうしたスポーツレジャー活動の集大成として昭和47年と48年には、モータースポーツの祭典YGSF（ヤマハ・ケランド・スポーツ・フェスティバル）が、多数の販売店さまやお客さまの協力を得て開かれました。この大会は、オイルショックの影響で、2回だけの開催にとどまっていますが、一企業の活動として、モータースポーツ史上に残る盛大なものとなっています。

いうまでもなく、モータースポーツ普及活動は需要創造活動と表裏一体を成すものであり、とりわけ、スポーツモデル、トレールモデルのユーザーが急増している今日のような時こそ、安全指導活動やマナーを重視したスポーツレジャーの普及活動が、広く望まれます。

それも、かつてのようなメーカーの主導形ではなく、販売店さんを中心に、ユーザーやメーカーが協力しあって開催する、地域密着型のスポーツレジャー活動こそ、着実に効果をあげ得るものと、期待されています。



# コヤマレーシングファミリー

クラブ通信

⑤

岩沢健二店長(南オートショップコヤマ/小山昌義社長/横浜市保土ヶ谷区)



「ツーリング活動は、すべて岩沢店長におまかせしているんです」と話す小山社長(右)。左が岩沢店長

## レース志向のクラブがツーリング活動の母体として動き出した

ツーリングから人生相談まで  
お客さまのニーズは千差万別

昨年の春からスタートしたレース主体のクラブ、コヤマレーシングファミリーは会員数10名。とくに会則や会員の決まりはありませんが、20代前半のお客さまを中心にMCF AJのスーパーロダクシオンレースを追っかけて、みんなでワイワイとやっています。そんなクラブが店にあるということから、色いろなお客さんが店に寄ってくれるんです。レースを始めてみたいという人も、ツーリングに誘って欲しいという人も……。

クラブの周辺に集まる人達は、もちろん単にオートバイや関連用品だけを買いに来ただけじゃありません。たとえば人生相談あり、恋愛相談あり。10代の若い子になると、親にも話したことがないようなことを色いろ話しに来る。

だから、私としてもどう対応すればいいのかと頭をかかえるようなこともたくさん……。でも、お客さんとの会話は、とにかく大切にしています。

店でのツーリング活動は、実はそうした会話の中から自然に生まれてきたんです。リーダー役は私。今では多いときで月2〜3度の日帰りツーリングへ出かけます。16〜17歳の女の子も来ます。

日曜日も店は開けていますから、出発はいつも朝の5時。それで昼ごろには戻ってきて店にでるといいうハードスケジュールですが、私にとっては楽しいものです。

ただ走りに行くというだけなんですけど、やはり早朝、箱根の空気は新鮮ですしね。

詳しいコース選択はお客さままかせ  
現地集合タイプのツーリングに  
人気集中!

ツーリングは現地集合のケースが中心です。あまり大勢で走るのは好きじゃない——これがお客さんの希望で、また私の考え方もそうです。

大勢で走るとやはり競争心がでてきます。

すると、結局自分のペースで走れない人がでてくるわけです。基本的には個人で走ってもらおう。多いときでもグループは7〜8名。目的地と時間はあらかじめ決めておいて、詳しいスケジュールやコースはそれぞれ決めてもらう。それで目的地で一緒に過ごすというパターンが、今の若い人の感覚に合っているようです。

大勢のグループツーリングだと、その土地の人と会話するチャンスも少なくなります。その点、ひとりふたりで走っていると、色いろな発見があって楽しいというわけです。

夜中の国道246号を、バイクで走りながらベルセウス座の流星群をいくつか見た、なんていうこともあったんです。



若いお客さまの間では「現地集合」タイプのツーリングが人気







嶋本洋子さん  
「女房は、**最新情報** いっぱい持っている。学生のお客さんから吸収してね」

●嶋本商会(松山市山越)  
嶋本為茂社長



新谷ツル子さん  
「忙しくなると、まるでケンカ腰。私の**5倍**くらいは働くね」

●新谷商会(松山市空港通)  
新谷福一社長

(社長さんが語るうちの女房)

# 松山

今月は、初夏の風薫る四国・松山から、元気いっぱいのおヤマハ奥さまが、コンニチワ。



片野三知子さん  
「女房はうちの**指令塔**。3台のサービス・バトカーを無線で操縦してるんだから」

●中予ホンダ南(松山市平和通)片野淑夫社長



近藤 都さん  
「**向っ気** がつよくて、押しがきく。積極的で接客も上手。まあ商売上手だね」

●近藤自転車商会(松山市綱山) 近藤修次社長



中川久栄さん  
「語り口が **やさしい** から、どんなお客さまでもすぐ友だちみたいになるね」

●南スラブサイクルセンター梅店(松山市北土居町) 中川睦敏社長



坂口静枝さん  
「**お人好**。よく値段をまちがえるんで、こっちがナミダを飲むこともしょつ中」

●サイクルショップ坂口(松山市古川町) 坂口利文社長



●太田克彦が人気マガジン編集長に聞く当世若者氣質  
**Magazine & Magazine** ⑤

「全ての人が同じ情報を受けたい」として  
 不満を感じはじめた「Hot Dog」



「ホットドッグ・プレス」

〔創刊〕1979年5月25日。1981年5月から月2回発行。現在94号。  
 〔発行所〕株式会社 講談社  
 〔編集部構成〕男15名、女1名、外部100名（エディター、ライター、カメラマン、スタイリスト）。  
 〔読者対象〕高校生および大学生が80%で、残りの20%は中学生と社会人。男女比は、90%が男性で、10%が女性。発行部数は、最新号が56万部（創刊は21万部だった）。  
 〔編集方針〕単なる“カタログ”ではなく、生活を伝える若者のための“生活情報誌”。読者よりも半歩すすんだ記事を書くことをモットーとして編集している。  
 〔編集内容〕ファッション、メカ（クルマ、オートバイ、オーディオ）、スポーツ、音楽、映画、演劇、若者カルチャー、女の子

に関する情報、SEX、商品……等の若者たちの生活すべてにかかわる情報を提供している。  
 〔編集長プロフィール〕1966年4月入社。「婦人倶楽部」の編集に9年間たずさわり、1975年より2年間「講談社MOOK」を担当。「ホットドッグ・プレス」は、創刊時より編集次長として活躍。1983年6月より同・編集長の大役を務める。1942年10月28日生まれ、血液型はB型。

●第5回ゲスト

●ホットドッグ・プレス



編集長 土屋右二氏

う、特売場の主婦みたいなどころもあって、女性心理にも近い感じがします」  
 「カタログ雑誌」などという呼び方をされていると思うんですが、いまだにそういう面は強いんですか？

「ですから商品の入手先の電話番号なんか間違えたら、もう大変ですよ。いちどなんか警察の人の、しかも自宅の秘密にしている電話番号と間違えてしまつて、こつてり油を絞られたこともありました。でもいやだったな、なにかこちらが犯罪者にでもなった気分になつてしまつて。またむこうの怒り方がそうだったんだもの。」

電話番号を間違えると、皮肉なことだけど、どれぐらい読者の反応があつたのかわかるんですよ。決してわざと間違えるわけじゃないんですけど……」

読者の反応は直接感じます？  
 「ええ、とくに。文通しませんか!?」ってページは、当初50人くらい女のコの写真を載せましたが、1万5千人から2万人以上も手紙がきました。いままも毎日、編集部宛に、ドソツと大きな袋が届くんです。  
 男のコがみんな角型の封筒つかつて、ファッション商品のキャラクターのついたヤツです。宛先にチョンチョンのついた「へ」という字があつて、ブリッ子文字ついでわかれてるマルい文字ということが共通しています。異様といえば異様な感じですね」

男女交際に何の規制もない時代なのに、飢えているのかな？  
 「表紙の男のコの住所おしえろつていう女のコの電話も多いですよ。それでね、男のコの場合、いちど断られるとあきらめるけど、女のコつてかなりしつこいんです。  
 ○○さんいますか？ つて編集部に電話かかってくるから。モデルさんですからこちらにはいけません。つてこたえると、撮影の日おしえてください」とか。電話番号しらせてくれ」とかね、ひとりの女の子から5、6回はかかってきますよ」

そういうところが女性の強さですかね。  
 「評論家の草柳大蔵さんが、女性がいま強くなつたから、これからは政治もなにも国のこ

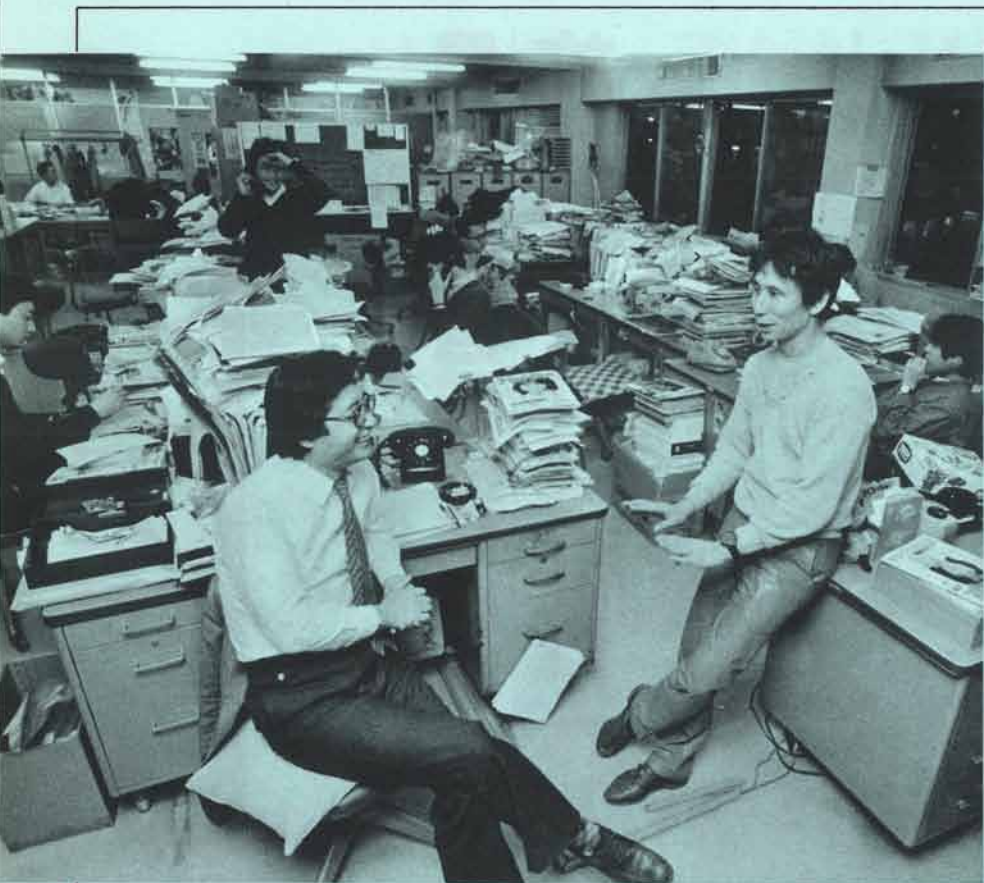
このところ急速に部数を伸ばしている「ホットドッグ・プレス」の編集室を、きょうは訪ねてみた。

「活字も写真も限界ギリギリまでめいっばい入つてページをうめています。こういう雑誌、読者はぜんぶ読むんですか？  
 「それが読むんですよ、細かいところまでぜんぶ。知識として知っておきたいという興味の部分と、なにかいい物を手にいれたいとい

ぼくが「ホットドッグ・プレス」の読者達と同じ歳ごろには、どんな雑誌を読んでいただろう。つまり高校生のころだ。思い出せるのは旺文社の受験雑誌くらいで、遊びを対象にした雑誌などはなかった。「平凡パンチ」や「週刊プレイボーイ」も創刊していなかった。「読む」といえば単行本で、したがって活字のイメージしかない。そこがいまの若い人たちとちがう。テレビが菓子や机と同じように日常的な家具になり、コミックスはもう何度

もブームをおこし、さらにコンピュータ・グラフィックスまで珍しくない時代になって、身のまわりはビジュアル素材でいっぱいだ。こういう状況の中で、「ホットドッグ・プレス」は、もつとも効率よく読者に情報を送りこむことができる形態をもつた雑誌なのだと思ふ。いいかえればこれは雑誌の形をとつたテレビだ。それほど情報量の多さを誇り、個人的なコミュニケーションを、ビジュアルに成り立たせているメディアといえる。





夜が更けるとともに活気がみなぎるホットドッグ・プレス編集室にて話が弾む  
土屋右二編集長(左)と太田克彦氏

「情報過多からどう逃れるかというのが大きな課題ですね。  
「ボクの家には、実はテレビがない。ステレオもクルマもない。あるのは自転車と電話く

なものをとっぱらって、ハダカ馬のようにしてしまおうし、中年ハーレー組はギンギラとデコレーションつけてますからね。  
「そういう傾向が、単にバイクだけじゃなくって、あらゆる面にあてはまるような気がするんです。  
たとえばスポーツ用品などに顕著に表われているんですが、ブランドだけで人気を引きつける時代は終わったように思います。ブランドというのは、つまり使う本人にとって飾りですよ。そうしたデコレーションの発想をとっぱらうことによって、なにかを考えようという姿勢へと変わりつつあるようです。大沢商会の問題なんか、そのことを象徴しているんじゃないでしょうか？」

「たしかに浅田彰とか、中沢新一といったアカデミックな人たちのカタイ本がよく売れていますし、時代が変わりつつあることは感じられますね。  
「軽くて面白ければいいという傾向から、手ごたえがあるものを求めたいというふうには時代は動いています。しかもそのサイクルは実に速いんです。『軽薄短小』の時代なんていわれたのは、ついこのあいだのことですからね。あと一年もすれば、もっとヘビイな現象がいつばい出てくるでしょう」

「そういう過渡期の時代に、この雑誌はどう対応していくんですか？」  
「すべての人が同じ雑誌を受けとるという状況に、読者はだんだん不満を感じると思えます。個人にとって価値のある情報を求めたくなって、一般的な情報にたいして情報ばなれの現象がおきるでしょう。まあ、情報を提供するのが雑誌なんですから、自己矛盾ではあるんですが。  
それでもウチの雑誌は、方法論としては可能性があると信じてます。時代が変わってもかならず必要な精神性にベースをおきたい。先ほどの野生馬のシンブルさにもつながるのですが」

「情報過多からどう逃れるかというのが大きな課題ですね。  
「ボクの家には、実はテレビがない。ステレオもクルマもない。あるのは自転車と電話く

「そういうことが本場の文化なんです。『テレビCMじゃないけど、いわゆる一般大衆』は、そろそろ気づきはじめています。そういうことに。  
もうひとつ個人的な体験をいいますと、ウチの親戚が醤油屋なんです。このあいだそこでつくった醤油を送ってきたんです。あしたつぶれてもいような細々とした工場なんですけど、これが実にうまかった。日ごろメーカーの味に慣らされていますから、つい舌が忘れてしまった味だったんですね。  
なにも醤油だけではなく、ほかにも忘れていた味は、たくさんあるでしょう。けれど表面的には忘れてしまったけれど、心の奥では無意識に求めているものなのです。男のこつて忘れてしまうことに耐えられないんです。ただ、もともと戻りたくても、戻り方がわからないんです。その迷いの時期がいまじゃないですかね。現象的には、たしかに女性が強くなっていますが、男は決して後退しているわけではないんですよ」

とを女性にまかせたらいい」といった発言を冗談まじりにされていましたが、ほんとにそんな気にもなりませんね」  
「アメリカでは、大統領に女性を。なんて声も聞こえますからね。  
「だから若い男のこの読者を見ていると、逃げの姿勢が目立つんです。浅田彰の『逃走論』がベストセラーになるのもよくわかります。クライドですね、男の未来は。そういえばバイクのライダーっていうのも、なぜかクライドが多いという印象があります。2輪の連帯感で、そういうところ引きずるような面があるような気がします。  
ところでバイクに乗る人間にとって、馬みたいなものではないか？」  
「むしろ騎手が馬を愛する以上に、ライダー

「馬を愛する例もあるけど、」  
「とすると、ハダカ馬にまたがるっていったようなブライドがきつとあると思うんです。最近の四輪は、コンピュータ積んで、ドアを閉めてください。なんて音声まで出るようになっていて、だんだんデコレーションが多くなつて。これをバイクをつくる側でマネする傾向がありますね。  
でも乗る側の発想って逆じゃないかと思うんです。オートバイのライダーって、野性馬にまたがる雄々しさを求めているんじゃないでしょうか？」  
「とくに若いライダーならそうでしょうね。いい例はハーレーに乗る人たちが、若い人達と年寄りとは、まったく指向がちがいます。ハーレーの好きな若い人は、できるだけ余計

「たしかに浅田彰とか、中沢新一といったアカデミックな人たちのカタイ本がよく売れていますし、時代が変わりつつあることは感じられますね。  
「軽くて面白ければいいという傾向から、手ごたえがあるものを求めたいというふうには時代は動いています。しかもそのサイクルは実に速いんです。『軽薄短小』の時代なんていわれたのは、ついこのあいだのことですからね。あと一年もすれば、もっとヘビイな現象がいつばい出てくるでしょう」

「そういう過渡期の時代に、この雑誌はどう対応していくんですか？」  
「すべての人が同じ雑誌を受けとるという状況に、読者はだんだん不満を感じると思えます。個人にとって価値のある情報を求めたくなって、一般的な情報にたいして情報ばなれの現象がおきるでしょう。まあ、情報を提供するのが雑誌なんですから、自己矛盾ではあるんですが。  
それでもウチの雑誌は、方法論としては可能性があると信じてます。時代が変わってもかならず必要な精神性にベースをおきたい。先ほどの野生馬のシンブルさにもつながるのですが」

「情報過多からどう逃れるかというのが大きな課題ですね。  
「ボクの家には、実はテレビがない。ステレオもクルマもない。あるのは自転車と電話く

「そういうことが本場の文化なんです。『テレビCMじゃないけど、いわゆる一般大衆』は、そろそろ気づきはじめています。そういうことに。  
もうひとつ個人的な体験をいいますと、ウチの親戚が醤油屋なんです。このあいだそこでつくった醤油を送ってきたんです。あしたつぶれてもいような細々とした工場なんですけど、これが実にうまかった。日ごろメーカーの味に慣らされていますから、つい舌が忘れてしまった味だったんですね。  
なにも醤油だけではなく、ほかにも忘れていた味は、たくさんあるでしょう。けれど表面的には忘れてしまったけれど、心の奥では無意識に求めているものなのです。男のこつて忘れてしまうことに耐えられないんです。ただ、もともと戻りたくても、戻り方がわからないんです。その迷いの時期がいまじゃないですかね。現象的には、たしかに女性が強くなっていますが、男は決して後退しているわけではないんですよ」

▼インタビューアー・プロフィール

太田克彦おた・かつひこ。エッセイスト。1940年9月10日生まれ。バイクの本をディレクトしたことから、一筆にバイクファンとなる。オム・オフ両刃使いとして、執筆活動の合間合間にツーリングを楽しむ。主な著書に、『クロスオーバー』『モーター』『ジャーナルスト』『ともに冬樹社』『ロングロード』『クラッシュ』『30秒で3万語』『PHR研究所』、『東京ゴールドラッシュ』『TBSブリタニカ』……etcがある。

「いいかな? それでも情報が足りなくて困ったという実感をもったことは、あまりありません。まわりの様子を眺めては不雷同しては、読者にたいしてポリシーを守ることができないと思うんです。  
先日、とても感心したことがあるんです。婦人之友社から出版されている料理の本を見ていたら、これがすばらしいですね。初版は昭和30年代に出たんですが、それをえんえん売ってるんです。この本を見ると、魚のおろし方から何から、本を見ただけで実際に料理ができるようになってます。それほど記述が具体的なんです。成人病を生み出すのは、基本的に食生活を誤っているからということまで、よくわかる本なんです」

「そういうことが本場の文化なんです。『テレビCMじゃないけど、いわゆる一般大衆』は、そろそろ気づきはじめています。そういうことに。  
もうひとつ個人的な体験をいいますと、ウチの親戚が醤油屋なんです。このあいだそこでつくった醤油を送ってきたんです。あしたつぶれてもいような細々とした工場なんですけど、これが実にうまかった。日ごろメーカーの味に慣らされていますから、つい舌が忘れてしまった味だったんですね。  
なにも醤油だけではなく、ほかにも忘れていた味は、たくさんあるでしょう。けれど表面的には忘れてしまったけれど、心の奥では無意識に求めているものなのです。男のこつて忘れてしまうことに耐えられないんです。ただ、もともと戻りたくても、戻り方がわからないんです。その迷いの時期がいまじゃないですかね。現象的には、たしかに女性が強くなっていますが、男は決して後退しているわけではないんですよ」

「情報過多からどう逃れるかというのが大きな課題ですね。  
「ボクの家には、実はテレビがない。ステレオもクルマもない。あるのは自転車と電話く



# SENIOR UP COORNER

お忙しい販売店さんのための情報アンテナ・話題と流行の最新情報

## ○今月のセンスアップ

### 旅は道づれ、世は好奇心

へそくりとポケットマネーを足して、フム、フム、これなら一週間の旅ができるぞ、と内心ウキウキしながら北国行きのフェリーに乗る。お店のことは少しばかり誰かさんに任せて年に一度はこうやって心の洗濯をしないことには、頭の中の思考回路が渋滞してしまいます。

「君はどこに行くの？」とケニーレブリカのヘルメットを椅子がわりにして海を眺めている学生風の男の子に尋ねる。潮風に吹き飛ばされそうなボクの声をなんとか聞きわけて「ウーム左まわりで今日は大沼国定公園かな」という具合にサラッと答えてくれた。「実はボクは行き先を決めてなかったから」「そりゃあ偶然だねえ」と前置きして、「一緒に走ろう」なんて相手に同意を求める。

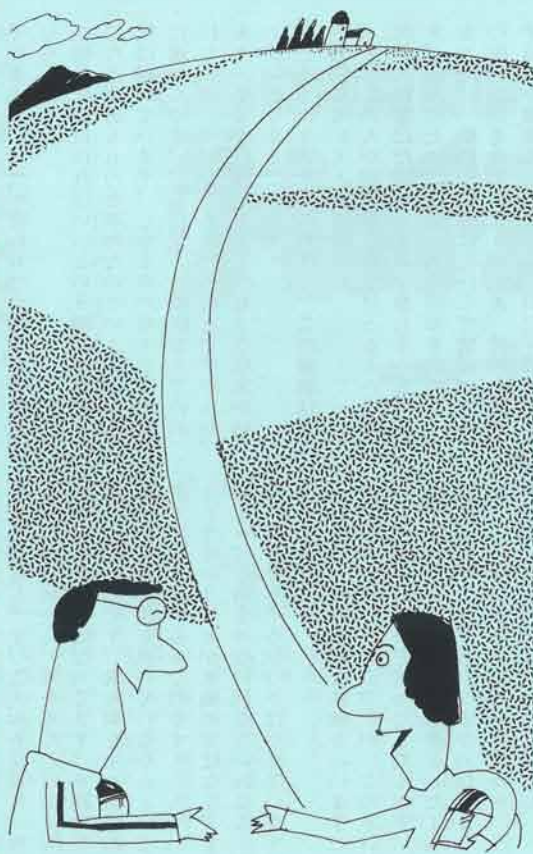
旅のプロセスで体中に感じる虚々々々はいくつ年をとっても新鮮に胸の中に飛び込んでくるものだが、好奇の対象が人間、というのが一番楽しい。

フェリーから勢い良く2台のオートバイが脱出する。退屈そうだった愛車が、いつもと同じ調子なのに、幾分軽い吹き上がりを見せているみたいだ。北海道という大きな大地に放たれたボク自身と愛車が、洗いざらしのGパンとTシャツのようにスガスカしい。ところで東の間の相棒となった学生さん。

走りはクルマの流れに乗って実にスムーズでおまけに後を走るボクのことまで気遣っている。ちよつと前までまったく見知らぬ同志だったのに、こんなコミュニケーションができるなんて本当に久びさだ。サッと後ろに流れて消えてしまう景色も彼はチラッチラッと少しだけ首を動かして見ているようだ。

夏より少し前の、本土にしてみればまだ肌寒いこの大地。しかし、野に咲く花々を思いきり見るのなら、今がいい。何回か北海道を旅して知ったこの経験を学生さんもきつとわかっていただろう。

5分も走れば通過してしまふような小さな街で、ボクたちは食事をとることにした。2人して迷ったのではないが、中華料理の店にしてしまった。店の外観に似合わず味は上々で盛り付けも本格的。感激だ。国道沿いのドライブインのような画一的でうまくもなければまずくない料理は、この際もうヤメにして、古びた地元の小きな食堂を見つけたのがいい。それよりも何故、中華料理は日本料理のように小皿いっぱいではなく、数人で分けて合せて食べるのだろ。合理精神旺盛なドイツ人がスープ以外は大きな一皿にすべてを盛ってしまう。あれでは洗う時とてもラクだろうが、何かワサビが効いてなくて風流さを重んじる日本人にはやっぱり受け入れられない



のだろう。もつとも子供用としてはあのドイツ式が便利でこの上ないが、そのまま子供たちが育ってしまえば日本の食事はみなドイツ式となる。

そんなこんなをチラチラ自己問答しながらあつという間に2人して平らげた。そのあとに出てくるあのお茶はウーロン茶だったはずだが、実にあと口がさっぱりしていておまけに胃がもたれたりしない。中国四千年の歴史といえはあまりにも冗談ばいだが、バイク乗りにはちよつどいいお茶なのかもしれない。

忙しさにまかせて、ついつい仕事のことばかりを考え、果ては一見余裕のありそうな自分の顔も、少しばかりキツクなりがちだったはず。見知らぬ土地で馴染みもない学生さんとうとうして旅を楽しむとそんな自分の顔がきつとまん丸に変貌していることだろう。

学生さんは一人で少しばかり飛ばしてみたというから、その店の前で別れることにした。昔の自分ならレース気分て休むことなく一気にたくさん道を走り抜けただろう。とにかく何でもいから距離を稼ぐことばかりでコーナーを見れば逆にアクセルを開けるのが普通だった自分のことがつい先日のことのように思えてくる。

今、走ることの魅力は変わらないが、走り以外の旅で出会う見知らぬ人や言葉はもつと面白い。ひと通り走った日本がどんどん広く思えてきた。

さて、今日はどこで宿をとろうか。民宿のおやじに活きのいい魚でも頼んで、ついでにうまい地酒でも一杯頂くことにしよう。明日はもつといい天気になりそうだ。

(小野寺秀悟)



FASHION

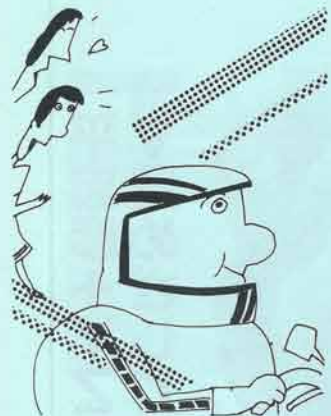
●本日のバイク見栄講座

少し前にベストセラーとなった『見栄講座』（小学館）という本の中に、「見栄オートバイ」というのがあります。その扉の文句がサマになっていて、「暴走族なんて古い古い。ライダーの主流は今や、ミーハーなシティライダー。君も思い切りカッコつけて彼女と二人乗りしよう」とあってなかなか挑発的。

その講座によりますと、ホルシエやベンツはしよせん四輪で誰にでも転がせ、バイクはその格好よさでバイク乗りは必ずもてるというのです。本当でしょうか。バイクこそ、ミーハーにとつて、女の子をモノにするための最終兵器と申せましょう、とくる。ええっ、うっせー、ほんとにーと言いたくなるのです。バイク乗りがもてる方法はミーハーでなくともミーハーであっても本質的に別の次元で抱えるべきだと思ふのです。

本気で女の子にもてるバイク乗りのあり方を考えてみましょう。

まず、バイク乗りに限らずシブいこと、服装、体型、顔つきがまず問題です。その本では車種別にキマツた服装を押しつけていますが、クロスオーバーの時代です。イタリアンは皮革つなぎ、ブリティッシュはおかま型（この本の表現はおもしろい）なんてウツ。ヨーロッパでもブリティッシュでもお気に入りのジーンズでいいのです。気に入ったもので誇らしげにのることこそ、絵になるのです。体型はハラがでていてもかまいません。オジさんならオジさんらしくドンと頼れるもの、つまり、らしくあればカッコいいのです。そして、顔つきです。いやなことがあ



ったときも嬉しいときも変にカッコつけずに素直にやっていたらいいのです。メッキはどんなに立派にメッキしてもはがれるもの。と、本気でこの本に対抗しようとして、これらしくモテ方を探ったのですが、これもこの本のように軽くジョークとして受けとつて欲しいと思います。

TIRE

●リブレスタイヤはむつかしい

モーターサイクル用のタイヤの感心は高まる一方でどこまでも知らないほど。国産はブリヂストン、ダンロップ、イノウエ、ヨコハマ、外国製ではミシュラン、ピレリ、メツエラー、コンチネンタルなどがあり、その新製品開発の速さは目を見張るほどです。御存知のように新車のときから使用されている、いわゆる標準装着タイヤは耐摩耗性やグリップ性能、乗り心地の点でまずまずの総



合性能をもったものです。ですから一般使用を考ふるのなら、新品を組み付ける時は標準タイプをセレクトするのが一番です。

しかし、お客さまはあれやこれやと新しいタイプのタイヤに飛びつこうとします。その場合にはお客さまが指向していることを適格に把握することが重要で、単なるトレッドデザインや流行だけで選ぶとミスセレクトとなることが多いはずで、

ラジアルタイヤも次々とこれからも登場しそうですが、当面、ラジアルの場合はパイアス用よりもさらにバイクとの相性が難しくなりがちです。何を選ぶのかは結局お客さまの勝手かもしれませんが、お客さまが欲しているタイヤ情報ぐらひは少なくともキャッチし

FILM

●映画館で世界GP観戦。バイク映画『ウィンディー』

「汚れた英雄」の大ヒット以来、ロードレースは、すっかりお茶の間に浸透。レーシー志向は、いまやモーターサイクルの世界だけにとまらないようです。



そんな中で、いま話題を集めているのが世界GPを舞台にしたロードレース映画『ウィンディー』。渡辺裕之扮する日本人ライダーが、世界チャンピオンをめざしてGPシリーズを転戦する様を、さまざまなエピソードを織りまぜながら描きあげたもので、監督は原田真人。日独合作でGPレースシーンもふんだんにもり込まれ、バイクファンとしては、これだけでも見応え十分。東宝東和の配給で、4月下旬から全国一斉ロードショーされています。

NEWS

●これからどうなる新聞の信頼性

アメリカのタイム誌によりますと、アメリカの新聞や放送に対する大衆の信頼度が驚くほど低下していると発表しています。全米世論調査センターの統計では86年の新聞の信頼度は29%だったが、83年は13.3%と大幅に落ち込んでいるというのです。その落ち込みの理由として、報道が名譽、義務、サービスといった常識から離れてセン

HEALTH

●マンハッタンの健康産業は  
メイト・イン・ジャパン

セッションナルな事件を個人的な名譽や金銭上の利益に利用しているからといます。さらに新聞が権力を持ち始めたために記者の不遜が目立ち、一般大衆の反感を買うようになってしまったというのです。薄給であったもプライドが高い記者というイメージがなくなり、大統領より高給のクールなアンカーマンが今日の記者のイメージとなっているわけです。さて、日本でもこれからアメリカのような動向を見せるのでしょうか。大丈夫だとも思えますし、やはり不安でもありますね。

大極拳だのエアロビクスだのと、健康を意識させてくれる運動が定着した感のある今日この頃ですが、ニューヨークでは日本人による指圧がけっこう流行しているとのこと。その指圧は、いわゆる風俗的なものではなく、大まじめな方の指圧で、マンハッタンの高層ビルを忙しく日本人指圧師が飛びまわっているというのです。



大きな体が相手なので、ついつい力を入れ過ぎるのか、マッサージも激しく、もみ返しがかかるほどといえます。通常一回、5ドルの出張料も入れて料金40ドル前後。やたら薬ばかり飲ませる西洋医学と違い、ツボを心得た指圧師にかかれば、スジ違いや腰の痛みなども効果的に治してしまうので人気も上昇。アメリカでは健康を取り戻す費用が日本と比較して非常に高いために、このような低コストの東洋医学がもてはやされるわけだ。



## 平忠彦+YZR500 V2めざして好ダッシュ!



500ccのコンディションも最高、日本V2を好ダッシュした平忠彦



今季初レースの筑波で圧勝、人気・実力ナンバーワンぶりを示した平選手(中央)

全日本選手権ロードレースシリーズのメインレース・国際A級500ccクラスにおいて、全日本チャンピオン平忠彦選手とヤマハYZR500が、早くもV2に向けての快進撃を始め、ファンの人気を高めている。

★

3月のデイトナ200マイルレースに初挑戦、チームメイトのエディ・ローソンについて5位入賞という好成績を残した平選手は、3月25日の第2戦筑波大会から全日本選手権シリーズに出場。今季初出場の国内レースで、いきなり予選最高タイムを叩き出してポールポジションを獲得。決勝のスタートこそ出遅れたものの中盤からトップに立つと安定した走りを見せ、2位の木下恵司選手に17秒もの大差をつけて圧勝した。

つづく、4月8日の第3戦・SUGO大会でも平選手とYZR500は快調でまたもポールポジションからのスタート。そして中盤

以降は、全く危ぶまぬ走りを見せて連勝。V2に向けて快調なすべり出しをみせた。

また、このSUGOでは、同じYZR500に乗る大ベテラン河崎裕之選手が、平選手について2位入賞。みことなワン・ツーフィニッシュで、観衆の声援を集めた

## エディ・ローソン+YZR500 '84世界GPの序盤戦をリード

3月24日、ヨハネスブルグ近郊のキャラミサーキットで行なわれた南アフリカGPによって、'84世界選手権ロードレースは全12戦にわたるシリーズ戦の幕を落とした。注目の500ccクラス。キング・ケニー・ロバート引退後のマルボロヤマハチームのエース、エディ・ローソンとYZR500が、第1戦から快調なすべり出しを見せてランキングをリードしている。

まず、雨中のレースとなった第1戦では、11番手のスタートからダッシュよくトップに踊り出たローソンが、一時2位に退ざいたも

ものであった。

「大きなバンクのあるデイトナのコースでの走りは初めての体験。それがとてもよい勉強になりました。デイトナで吸収したものを生かして全日本V2を狙います」と平選手は元気一杯です。ご声援よろしく。

の9周目から再びトップに立ち、以後は巧みな雨中走行で、2位のロッシに15秒の大差をつけて、幸先のよい勝利をマークした。

つづく第2戦は、4月15日、ムゲロサーキットでのイタリアGP。6万人の大観衆を集めて行なわれたこのGPでも、ローソンは快調トップの座こそF・スペインサーに譲ったものの、確実に2位入賞を



\*ダンシング・イン・ザ・レイン。巧みな走りで見事な勝利をあげたローソンとYZR500

## 5月のレーシング カレンダー

- 全日本ロードレース⑤筑波(12-13日)
- 全日本モトクロス④鈴鹿(12-13日)
- 500ccモトクロス④・フランスGP
- 250ccモトクロス④・チェコGP
- 5月20日
- ロードレース④・オーストラリアGP
- 500ccモトクロス⑤・スウェーデンGP
- 250ccモトクロス⑤・イギリスGP
- 125ccモトクロス⑥・西ドイツGP
- 5月27日
- 全日本ロードレース⑥ SUGO (26-27日)
- ロードレース⑤・西ドイツGP

この結果、ランキングポイントではローソンが27ポイントで首位。2位のロッシに5点の差をつけた。

一方、メインレースの500ccクラスに負けず劣らずの興味深いシリーズ戦となりそうなのが250ccクラスである。

ほとんどのマシンが、ヤマハTZ250だが、それだけにデッドヒートも壮烈。そうした中でW・レイニー、A・カーターのケニー・ロバートチームの2人が、めざましい走りで見事な成績を挙げている。

●カルキビストは4位でスタート4月に入りモトクロスの世界選手権シリーズもいっせいに開幕した。注目の500ccクラスでは、ヤマハに乗るチャンピオンH・カルキビストが、4月15日の第1戦・イタリアGPで第1位、第2位、第2位の総合4位で、V2めざしてのスタートを切った。



●ヤマハニュースは、販売店みなさまの情報誌です。みなさまの積極的な誌上参加をお待ちしております。二重丸に関する話題、二重丸、ご相談なんでも結構です。お気軽にお寄せください。  
 〒438 静岡県磐田市新員2500 ヤマハ発動機株式会社 広報室宣伝課「ヤマハニュース」係 ☎05383(2)111(内線2356)

## YA、YC、YD、YDS…… シックスティーズ・ヤマハふるさとに集合

55年から69年の間に生産されたヤマハ2サイクルモデルの熱心な愛好家たちが結成されている「YDSクラブ」の第2回ミーティングが、先ごろヤマハマリーナ浜名湖で2日間にわたって開かれました。

それぞれの愛車を駆って、あるいはバンに積み込んで、1日目の目的地・ヤマハ本社に集合したのは、関東、中部、関西の各地から68名・70

台。一行を迎える本社では、時ならぬ懐しの名車の出現に、ヤマハマンたちが多数つめかけて歓迎。本社工場で、最新鋭モデルの生産工程を見学したり、ヤマハ首脳陣のあいさつを受けた後、目的地のヤマハマリーナ浜名湖までツーリングを楽しみました。



↑静岡県磐田市のヤマハ本社からヤマハマリーナ浜名湖へ、懐かしい2サイクルサウンドを響かせてツーリングする「YDSクラブ」の一行



→ずらり勢ぞろいした懐しの名車たち。軽量・スリム・コンパクト。そんな言葉が一目りょう然

ルのヤマハのシンボルモデルが登場する中で、ミーティングとあってメンバーの表情もいきいき。60年代のヤマハにも、そして84年のヤマハにも共通して流れる「高品質・高性能」の話しに花をさかせていました。

## ヤマハ奨学生 第1期生、勇躍販売の 最前線へ!



販売店経営者として次代の2輪業界を担うお店の後継者の方がたを対象にしたヤマハ奨学生制度が、3年前からスタートしていますが、このほどその第1期生12名が3年間にわたる研修を無事に修了。勇躍販売の第1線へと巣立って行きました。

この奨学生制度は、3ヵ年間で、オートバイの技術基礎、販売・経営安全普及などに関する実務、三級整備士の資格取得など、これからの販売的経営に欠かすことのできない各

## 科学万博「くるま館」の コンパニオン募集中!

昭和60年3月17日から6ヵ月間、茨城県筑波研究学園都市において「科学万博」が開催されます。この科学万博には、日本自動車工業会も「くるま館」としてパビリオンを出展。世界に誇る日本の自動車産業の成果と未来を示すことになっていきます。

そしていま、自工会ではこのパビリオンでお手伝いしてくださる、専属の女性コンパニオンを次の要領で募集しています。お店の方、お客さまの中で、あの人こそ、私こそ、という方、どうぞふるって

- 応募ください。
- くるま館における観客の案内、整理、接遇、通訳、VIP接遇など
- 募集人員……50名
- 応募資格……20〜30才くらいまでの短大卒業程度の学力を有する健康な女性
- メ切り……59年5月15日(消印有効)
- お申込み、お問い合わせ……〒100東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル4F 日本コンベンションサービス㈱「くるま館」コンパニオン係宛

## 女性だけのバイククラブが ミニYRSを自主開催

業務をマスターしていただくもの。第1期生の活躍が期待されていますが、現在も2期生23名、3期生27名、そして4月から開始した4期生10名が、充実した研修をつけています。

〔ヤマハ東北滋賀営業所〕3月のはじめ、滋賀県大津市にある滋賀県自動車教習所で女性ライダーのクラブ・SLL(滋賀レディ・レディ)がミニYRSを自主開催しました。

このクラブは、同教習所の辻良男教官(写真右端)の指導でライダーとなった女性たちばかりのユニークなクラブ。この日も遠く京都や奈良からの参加者も加えて19名が、辻教官のアドバイスを受けていました。とはいえこのクラブ、日頃からツ



ーリングなども活発に行なっているためメンバーの腕前もなかなか。久しぶりに教え子たちの指導に当たった辻教官の表情も終始ニコヤカなものでした。



●詳しくは担当のヤマハマンにお問合わせください

## いまヤングの話題、チャンプ新発売を店頭からアピール!

ウエッジシエイブのスピード感あふれるスタイル、50ccスクーターでは群を抜く走り、上級スクーター同等のハイレベルな商品性、新発売から1カ月、チャンプは着実にヤング男性の人気を集めています。

このチャンプを、春から夏へのスクーター商戦の主軸として、お店でもどうぞ積極的な新発売セールをご展開ください。チャンプ店頭演出ツールも、豊富に用意いたしました。

チャンプの店頭演出ツールは、以下の7点です。

- ①チャンプセールスポイントポスター  
チャンプのセールスポイントを見やすくまとめたポスターです。セールストークのご参考にご利用ください。
- ②チャンプ新発売告知ポスタービラ  
ショーウィンドに貼り出し、お客さまにチャンプ新発売の印象を強烈にアピールしてください。
- ③チャンププライスピラ  
¥119,000円のチャンプの価格を明示したプライスピラ。チャンプを店頭展示する際にご利用ください。
- ④チャンプ店頭のぼり  
チャンプのイメージ・キャラクターであるアッティラ・フォン・ソモギの写真入り店頭のぼりです。
- ⑤チャンプ店頭ミニ横幕  
スペースを選ばずに店舗できるチャンプ店頭ミニ横幕。材質は布製です。
- ⑥チャンプシーリングポップ  
3つのバリエーションが展開できるシーリングポップ。お店に合わせてお好みの型をおつくりください。
- ⑦チャンプフォトポスター  
チャンプのテレビCFロケのカットを並べたフォトポスター。テレビCFとの相乗効果をお楽しみください。



チャンプ店頭のぼり



チャンププライスピラ



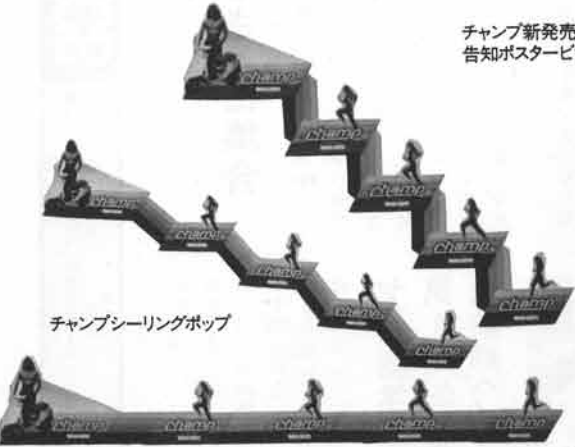
チャンプ新発売告知ポスタービラ



チャンプフォトポスター



チャンプ店頭ミニ横幕



チャンプシーリングポップ

**FZ400Rの話題づくりも  
よろしく願っています。!**

FZ400Rのセールスプロモーション・ツールとしては、①FZ400R予約申込書、FZ400R予約状、③FZ400R店頭のぼりが用意されています。どうぞご利用ください。




チャンプ商品ガイド

商品ガイドとVTRカタログもご利用ください。

- ①チャンプ商品ガイド  
チャンプのことなら何でもわかるチャンプ商品ガイド。販売活動に、サービス活動にご利用ください。
- ②チャンプVTRカタログ  
店頭におけるチャンプ・セールストークに欠かせないのが、チャンプVTRカタログ。チャンプの鮮やかな走りを、テレビの画面を通じてアピールします。(近日発売)



ヤマハ八整備用機器の工具特別セール 好評につきキーカ月延長!

販売店さまの日頃のご愛顧にお応えして実施したヤマハオリジナル整備機器と工具のスペシャルセールは4月号のこの欄で紹介した通りですが、好評につきセールをさらに1カ月間延長して展開することになりましたので再度、ご案内いたします。

今回のスペシャルセールの対象ツールは、以下の31品目ですが、いずれも大幅な割引価格で幹旋しているものです。たとえば、整備業務に不可欠なバイクリフトが220,000円から165,000円へと引き。また、二輪用業務充電器が57,000円から39,800円へ、ハンドタッカーが18,500円から13,000円へ、さらに二輪専用ホ

- ① バイクリフト/ML-3A
- ② キャブイーター/MT-3A
- ③ キャブイーター/MT-3A
- ④ デラックスメカニックスキット/D
- ⑤ PROTO ツールキット/2000 MKX

- ⑥ ミニチームクリナー/NC-170
- ⑦ パーツスタンド/PS600
- ⑧ 作業台/KW-381
- ⑨ マイティバッグ(ブレーキブリーディングキット)/NO.6820
- ⑩ ハスコベアリングプラー/HBP-10257
- ⑪ 二輪車用業務充電器/Z-126M
- ⑫ エアリーチャックゲージ/6-1CY
- ⑬ エアラインパクトレンチ/KW-8PY
- ⑭ エアードライバー/KW-8S
- ⑮ トルクレンチ/450QL
- ⑯ トルクレンチ/900QL
- ⑰ ハンドタッカー/HTG7
- ⑱ パキニウムゲージ/VA-140M

- ⑲ ヤマハポケットスタ/3002Y
- ⑳ タイミングライト/TL-5BA
- ㉑ ハンディエアーリール/HA-208N
- ㉒ エアコンプレッサー/GP5-7SY
- ㉓ エアコンプレッサー/GP6-7SY
- ㉔ パーツハンガー/Z4-YB
- ㉕ 中量棚/B2745
- ㉖ デブコン/F
- ㉗ デブコン/HR-303
- ㉘ 二輪専用ホイールバルancer/バルコ91
- ㉙ 二輪専用ホイールバルancer/CWB-6201
- ㉚ ホフマンタイヤエンジン/MON31MC
- ㉛ CO排気ガスタスタ/MEXA-201F

スポーツバイクの楽しみをお伝えください。

スポーツバイクの本格的なシーズンを迎えています。皆さま方のお店ではどのような安全運転活動を展開されていますか。



「FZ400R、RZV500R」と、オンロードバイクユーザーにとって垂涎の的といえるニューモデルが立て続けに新発売されています。とくにオンロードバイクのお客さまに對しての安全運転指導は、より積極的に行ないたいものです。

そこで、今回はオンロードバイクユーザーに對する安全運転指導のポイントを簡単に紹介しましょう。

- 1、ツーリング活動
- 日常的に行なっているツーリング活動に、安全運転指導の要素を盛り込んでください。たとえば、やや広いスペースのあるオフロ

ードを目的地として設定。何台かのオフロードバイクを用意して、そこでオフロードライディングスクールを行ないます。

オンロードバイクのお客さまに、オフロードの楽しさを体験させながら、同時に安全運転の心構えとテクニクを伝えるというわけです。オフロードバイクの取扱にもつながります。

- 2、MINIYRS
- 身近な自動車教習所を借りて、ミニYRSを開講しましょう。
- 自店のツーリングクラブのメンバーを中心に呼びかけ、さらに彼等にも口コミで動員促進をおねがいします。

要は、楽しく、和気あいあいと安全運転指導を行なうことです。

時には、ゲーム性をもり込んだバジジテストや性格診断をはじめ、バイク5種競技やミニバイク運動会、さらにオフロードバイクの試乗会やニューモデルのデモンストラクション走行などを行ない、お客さまの遊びごころを刺激することが大切です。

なお、これらのイベントの開催にあたっては、事前に担当のセールスマンにご相談ください。ヤマハ安全運転推進本部では、各種ノウハウやツールを用意して企画段階からお手伝いさせていただきます。

5月、ONLINE MXの全日本が開催されます。

モータースポーツシーズンも花ざかりの今日この頃ですが、この5月と6月には宮城県仙台市郊外のスポーツランドSUGOで、ロードレースとモトクロススの全日本選手権大会が相次いで開催されます。

季節も、まさにツーリングの絶好期。お客さまと一緒に、ツーリングを楽しみながら観戦にお出かけください。

〈全日本選手権ロードレース大会、第6戦〉  
 デイトナ200マイルで5位入賞し、帰国後の全日本第2戦、第4戦で立て続けに優勝

を飾って波に乗る平忠彦を筆頭に、いまヤマハのロードレースチームはベスト・コンディション。ペテラン河崎裕之とのコンビネーションに大いに興味もたれています。

○期日/5月26日(土)・27日(日)

○会場/スポーツランドSUGO・ロードコース

○料金/(前売)大人1,600円、(当日)大人2,000円、子供500円

〈全日本選手権モトクロス第6戦〉  
 アメリカ留学中の光安鉄美の欠場をガッツておぎなう庄司覚や鈴木秀明、藤秀信らのヤ

マハ勢。地元SUGOでの活躍が大いに期待されています。

○期日/6月9日(土)・10日(日)

○会場/スポーツランドSUGO・菅生ハイランド

○料金/(前売)大人1,600円、(当日)大人2,000円、子供500円

なお、お問合せはスポーツランドSUGO(宮城県柴田郡村田町菅生)022483-3111のSUGOスポーツクラブ事務局までどうぞ。





# 5月のセールス・ワンポイント

産業能率短期大学助教授・吉川雅之

お客さまのバイクに対するニーズ、お店に対する要求などは、刻一刻と変化をつづけていくものです。春商戦最盛期の今、お店とお客さまとの間に、ズレはありませんか？

## これからのスクーター販売は、売り手のウデの見せどころ

チャンプ、アクティブS……と今年も新しいスクーターの登場がつづいています。でも、一時のブーム的な状況からみると市場の様子もだいぶ変わってきているようですね。

市場が導入期、成長期にある段階では、お店としても売りのポイントは、いかに多くのお客さまの目に商品に触れさせるかということにあります。セールスポイントにしても競合の主体は他業界。例えば、自転車と比べて楽、バスと比較しても安い、自動車と比べて維持費がかからず駐車場の心配もない……などといったことです。

しかし、現在ではこれらはすでに当り前のこととして消費者に知れわたっており、さらにそれ以上の高度なことが要求されているのです。

そのひとつは、スクーター自身の性能です。より高性能で、乗りやすいものが求められて

います。さらに、そうした実質的な面ばかりでなく、もうひとつのプラスアルファも求められています。ファッショニタリがあり、より自分にふさわしいスクーター。単に実用的で見てくれが良いというだけではなく、乗ることによって満足感が得られ、自分らしさを表現できる商品ということになるでしょう。こんな状況を、商品のファッショニタリ、情報化、ソフト化などといっています。

いずれにせよ、これまで以上にキメの細かい顧客へのアプローチが必要な時代なのです。これは一面では、お店により高い販売技術を要求していることです。また同時に、より付加価値の高い商品の販売が可能になり、一台当りの利益を確実に向上させられるという面もあります。安くして数を売る時代から、よりキメ細かく売り込んでいく時代を迎えているというわけです。



## 冷徹なお客さまの選択眼に込められる、これからの専門店のあり方

シーズン到来とともに、スポーツバイクのニューモデルも多数登場しています。

これにあわせて、バイク専門誌も急激に増え、本屋さんの店頭はにぎやかです。一般に

モノ（商品）が増えるほど、必要とされる情報はその何倍もの勢いで増加するといわれています。

しかし、ここにひとつの問題が出てきます。

例えば、最近のユーザーは、専門誌などでよくバイクのことを研究している割には、知識がチグハグで、案外重要なことを知らない、といった傾向も見受けられます。





ユーザーにとっても、たくさんの知識は持っている、それをどう処理して、どう決定したら自分にとって有利なのかがわからない、そんな状況にあるのです。

このように迷っている時に、ユーザーはお店にやって来ます。

何を期待して来るのでしょうか……ひとつは実際の商品に触れたい、それで知識を確認したいということ。

もうひとつは、お店の人の話です。専門誌に書いてある、カタログに書いてあることでも、もうひとつはつきりしないこと、つまり生きたナマの実感を求めて来るのです。

お店としても、できる限り生の情報を身につけておかなくてはなりません。それには自分で乗ってみることも大切でしょう。メーカーの行なう試乗会などには積極的に参加して、そのうえ、そこで感じたことをしっかりと記

憶しておき、自分が乗って、どう感じたかをユーザーに正確に伝えるのです。

コンサルティング・セールス、という言葉があります。販売する側が十分な知識を身につけ、顧客の立場に立って相談に乗りながら商品を販売していく方法です。専門店としてバイクを販売していく以上、コンサルティングセールスができるように知識も増やしていきたいものです。

お客さまが注文した商品を渡して、お金を受けとるだけでは何の特徴もありません。「あの店の店に行けば良くわかる」、店員さんもよく知っていて相談に乗ってくれる、そんなイメージこそ、これからの専門店のあり方。本当に良いものを自信を持って勧めることができるかどうか、という専門店としての眼が要求され、それがあかないかで顧客のお店への評価が決まるのです。

## 「Aだから、Bなのです」セールストークに説得力を加味するデータ

カタログの巻末には、たいていさまざまな数字が並んでいます。データといわれるものです。

お客さまと話をする時、通常データはあまり意味がありません。例えばタンク容量で何リットル、などといわれても一部のマニアを除けば、ピンと来る人は少ないでしょう。軸間距離……などなると、何の意味かもわからないものです。

そこで、「だからどうなるのか」という部分をお客さまに伝えなくては意味がありません。例えば、そのタンク容量なら、1回の給油でそのお客さまの家から駅まで何回往復できるか、などということ。軸間距離も、小まわりや、乗り心地に影響してくるでしょう。トルクなどもわかりにくい数字です。トルクとは、そのお客さまにとってどういう意味があるかを説明しなければ、そのよさはわかってもええないでしょう。

お客さまを説得するにも、ただ「便利だ」「乗

り心地がよい」「速い」ということだけを伝えても、何故そうなるのか、という説明がなければ信頼性が乏しく、説得力も感じられません。やはり、数字に基づいた説得力が必要です。したがって、上手な説明のしかたを考えると「Aだから、Bである」という説明がよいようです。Aには細かい数字やカタログ上の言葉を入れます。例えば――

「タンク容量が〇リットルだから」

「エンジンが〇馬力だから」

Bには、それによって得られるお客さまのメリット、例えば――

「1週間に1度、ガソリンを入れるだけで済む」

「加速がとってもよい」

――となります。

お客さまに対して、数字のデータにもとづいた理由と、その結果である良さを伝える、それが説得力あるセールストークのポイントとなります。





# バイク、スクーターを大量に扱う事業所、官公庁を訪ねて

## 安心のメイトで信頼の業務遂行

●住友銀行・池田支店（大阪府池田市）

明治28年の創業以来、89年。全国に231の拠点を持つ住友銀行さんでは、手軽な外交活動の足としてヤマハバイクが大活躍。『あなたの街に、くらしの中に』のキャッチフレーズその

ままの、スピーディーでさわやかな業務が展開されていきます。

今月はそんな住友銀行さんの中から大阪府の池田支店さんをお訪ねしました。



↓朝8時、駐輪場で出勤を待つヤマハメイト



車輻の面倒を見られる総務課の山口課長さん

半径4〜5キロのエリアを月に800〜1000キロも走破

池田支店さんのある大阪府池田市は、市内と府下を結ぶ阪急電車が最初に手掛けた住宅地で、大阪市へのベッドタウンとして閑静な街並をみせています。

この池田市を中心に、隣接する豊中市、伊丹市、宝塚市などの高級住宅地にお客さまが集中している池田支店さん。そんな中でヤマハメイトの活躍ぶりを、車輛担当の総務課の山口課長さんにかがってみました。

「ヤマハメイトを使用しているのは、外交活動を担当する取引先課の人たちなんです。が住宅地という土地柄、訪問先は企業でなく、ほとんどが個人のご家庭なんです。

それだけにエリア内をくまなく回る典型的な戸別訪問方式で、訪問件数は多く、1日に70軒から100軒ぐらいのご家庭を訪問します。走行距離にすると半径4kmから5kmのエリアの中



笑顔が一番、取引先課を代表して波部さん



を、1カ月で800kmから1000kmも走るほどなんです。

これだけの軒数をこなすには、やはりバイクでなければ無理ですね。場所が住宅街だけに、自動車では思うように走れない狭い道や駐車スペースの問題、また朝夕の渋滞時などのことを考えると、他の交通機関ではとても無理ですね。また、エリア内には丘陵地もあり、かなりハードな走りをしていると思いますが、ヤマハのバイクは故障しらずで、本当に良く走ってくれますよ」

さまざまな活動で、「安全」を徹底

朝の9時にはほとんど全員が外交活動に出かけ、日が落ちて走りつづけるというハードな仕事をされている住友銀行・池田支店取引先課のみなさん。実際の業務にあたっての心がけを、毎日メイトにお乗りの波部さんにかがってみます。

「運転上で特に心がけていることは、住宅街を走るので、細い道での子供や老人の飛び出しです。また自分を守るためにヘルメットは必ずかぶって走りますね。

ちよつと余談になりますが、お客さまの大切なお金を扱う仕事ですから、現金や書類の取り扱いには十二分に気を使っているのは当然。それだけにカバンはいつも自分の目のとどところへ置かないと安心しないんです。以前はよくオートバイのハンドルにカバンを掛けて走るのがいたんですね。そんな人がカバンなしで走るとバランスが取れなくてまっすぐ走れない、なんていう笑い話もあるんです」

閑静な住宅地をスマートに、静かに、安全に走りまわる池田支店のみなさん。それだけに運行前点検の義務づけや毎月おこなうチェックリストを使った車輛点検、さらに朝礼時の安全運転の呼びかけや各人に配布した安全運転の手引書などにより、徹底した活動で毎日の業務の安全を図っています。

# 郵便業務の安全を守る保守店さんの局内常設サービスコーナー

●鹿兒島中央郵便局（鹿兒島市中央町）



澄みきつた青空に舞上がる桜島の噴煙をバツクに初夏の花の咲きそろった鹿兒島。ここに九州一の広さを誇る庁舎を持ち、180両の郵政機動車（うち168両・全体の93%強がヤマハ車）が活躍する鹿兒島中央郵便局さんがあります。そしてここでは、10万世帯もの郵便物の集配、貯金や保険業務の安全運行を支えるために、局内にサービスコーナーを設け保守店さんのサービス業務がつけられています。

## 素早い対応で完全整備をめざす

前に錦江湾、後にシラス台地をひかえた平地の少ない地形に加え、東の風が強まる夏期には桜島の火山灰で10m先も見えなくなるといった酷な自然条件の中を走り回るヤマハの郵政機動車。このヤマハ車を安全に確実に運行させるために、鹿兒島中央郵便局さんでは保守店さんのサービスコーナーを局内に常設するという、全国でもめずらしいシステムを採用しています。郵便局さんにとっても、保守店さんにとっても、何かと都合が良いといわれるこの局内常設のサービスコーナーのメリットについて、局内の全車輛の管理をされている会計課の愛内課長さんにかがってみました。

「やはり一番大きなメリットは、何かあった時の対応の素早さですね。保守店さんには、地下

1階の駐車場入口にある修理コーナーに常駐していただいていますので、朝の運行前点検時にちょっと調子が悪いというときも、その場で修理してもらえますし、出先での故障にも素早く対応してもらっています。この対応の良さは、つねに機動車が完全整備されているということで、2月1日より実施されているシステム改善による郵便物の送達速度アップにも、大いに役立っているんですよ」

## 乗る人の1人ひとりにあわせた整備

つぎに保守店さんとしてのメリットと心がけを、鹿兒島中央郵便局さんで保守歴16年のキャリアを持つナトミ商会の名富功社長にかがってみました。

「郵政点検のとき以外は局にいる時間は毎日局員さんたちと同じですから、乗務員さんたち一人ひとりの人柄や乗り方が解るので、乗る人の身になった整備や修理ができるんです。それに局員さんが通勤用に乗っているオートバイも良くウチから買ってもらっています。

心がけとしては、大切な郵便物を運ぶ直接の足となるものだけに、「仕事は早く正確に」をモットーにしています。エンジントラブルはありませんが、かなりハードな走り方をしているので、整備のときは足まわりを特に入念に見るようにはしています」

この言葉を裏付けるように車輛担当の鳩宿主任さんも……

「修理が早く確実なのでとても助かります。今年の年末年始には40台近くの車輛をナトミ商会さんに集めてもらったんですが、あちこちから車輛を集めると必ず整備不良車があるんです。それが今年にはナトミ商会さんに頼んだので完全整備がされ、業務がスムーズに進行して集配課の人たちから感謝の声が聞かれたほどです」



↑局内に常設されたナトミ商会さんの修理コーナー。保守の設備はバッチリです



→ズラリと揃ったヤマハメイト



業務の安全に積極的な姿勢を示す山口局長さん（左）と会計課の愛内課長さん

↓車輛の安全はまかせてください。左からナトミ商会さんの横山さん、会計課の鳩宿主任さんと名富社長

コーナーの成果については局長の山口さんも、つぎのように話されています。

「メンテナンスについては信頼しているの、あとは運転する人の車輛を可愛がる気持だけ。安全運転を一層心がけてもらい、無事故で業務が遂行できることを祈っています。二輪車の特性を良く理解した上で、これからも安全運転指導に力を入れていきます」





ロードレーサーを形どつたスパンが印象的な店舗全景



オープン展示を効果的に生かしたビッグバイク専門店

# スーパー感覚の店づくりで、新しい客層をキャッチ

## オートハウス・フルカワ / 古川洋美社長

名古屋市長緑区鳴海町字乗鞍6-1 ☎052(876)4330

名古屋市のベッドタウンとして人口が急増している緑区。ここでご商売する「サイクルショップふるかわ」さんは、この3月、本店からわずか1キロの所に、ビッグバイク専門の支店「オートハウス・フルカワ」をオープンしました。「5年後の市場を見越した……」というこの新店舗の演出ぶりを、今月はご紹介しましょう。

### ●スーパー慣れしたヤングに合わせた店づくり

330平方メートルの敷地に立つ、132平方メートルの新店舗は、とっても入りやすく、見やすいお店です。新しい客層の開拓をめざして、2年前から計画が進められていたこのビッグバイク専門店は、ちょうど技術スタッフも加わった今年、一気に実現されたのです。

「本店から目の届く近い範囲、しかも新しい客層の開拓につながるように、と思ってお客さまの流れが本店とはちがう場所をさがして、ここに決めました」と

と、目を輝やかす古川社長。肝心のお店づくりは、「バイク好きが集まる店」をポイントに、「スーパー感覚」でまとめあげたといえます。

「今の人は、「スーパー慣れ」しちゃっているでしょう。店員が寄って行くと逃げてしまふ。積極的に話しかけて行くと嫌われる。結局、店に足を運んでくる前に、専門誌などで商品知識は十分に仕込んでいるから、余計な説明は必要ない。聞きたいことは自分から聞く……ということなんですよ。そんな

お客さまに合わせて、勝手に入れて、興味がなければフラッと出ていける、まさにスーパーマーケットのような気楽さを狙っているんです」

### ●オープン、屋内展示、ショールームの3ゾーンで変化のある演出を

「でも気軽さは、スーパーなみでも、中味までスーパーじゃいけななんです」と古川社長は語ります。一体どういうことかと思いきや……

「やはり高価な商品を扱う専門店ですから、それなりの演出がなくてはね、これに気を配ったうえで入りやすさを考える。

まず入りやすさだけを考えれば、ドアやウィンドで仕切るよりオープンの方が気楽、というところで100坪の敷地の3分の2近くはオープン展示スペースにしました。そして、40坪の店舗建物のうち、やはり3分の2は仕切りなしで、お客さまが自由に出入りできるようにしてみました。

そのうえで約14坪のショールームを一杯演出して、スーパーとはちがった、専門店としてのイメージを打出すようにしたんです」



新店舗で意欲も新たな古川洋美社長(右)と鈴木美店長(左)

グリーン色の展示台の上に、スクーター、トレール、ロードスポーツとそれぞれの展示車を区別して配置した一見ロフト風の展示コーナーは、店頭のオープンスペースからショールームへと、お客さまを自然に導くうえで、きわめて効果を発揮している様子。

また、必要最少限に絞ったショールームからは、屋外展示場でお客さまの動きや反応が仔細に読みとれ、適切な接客応待に役立っているともいえます。

### ●店の個性にお客さまが集る、そんな店に!

ともあれ、オープンからまだ2ヵ月。「店づくりも第1段階。客層もはっきりつかめませんしね、ショールームの演出も実験の連続なんです。

そのため、今は毎日レイアウトを変えています。天気の良い日は、話題のニューモデルを一番目のつく所にオープン展示したりしています。いずれベストの演出が決まってくるでしょう。

お客さまには、いつも活動している魅力ある店の印象も植えつけたので、先さきも週に一度はレイアウトを変えていくつもりです。そのためにも、店頭のオープン展示、仕切りなしの屋内展示、そしてショールームと分かれているこの店舗は、変化がつけやすくていいですよ」

そして最後に古川社長は「これからは店の個性でお客さまを集める時代。お客さまがうちの店で買うことの価値を見いだせるような店づくりをしたいですね」と意欲的です。

### 店づくりのポイント

今月は、ちよつと角度をかえて、オートハウス・フルカワさんの印象を——もし私が、出店以前から店舗設計を担当したら、どんなお店にしたか……もちろん、フルカワさんのご希望や諸条件を納得したうえで、敷地全体に大屋根をかぶせ、できるだけ壁はつらく、屋根の中に全体ガラス張りの室を設け、商談と用品のコーナーにします。閉店時は、オープンになっている部分のシャッターを降ろすだけ……ちよつと飛行機の格納庫のイメージです。

建築費もさほどかさまず、大屋根のメリットも多分にあるでしょう。もちろん、フルカワさんのお店が良くないというのでは決してありません。この新店舗から、そんな夢が、湧いてきたのです。このお店も、うららかな春の光の中で、大活況を呈していることでしょう。見るからにヤング層に受けそうな良い雰囲気です。

柳ダイ・バイ・ダイ  
ヤマハ店舗相談室

伊藤隆藏





最新モデルと用品を中心に、きわめて効果的に演出されたシヨールーム



シヨールームの一隅には事務カウンターとお客さまコーナーも。右手のドアが、ロフト風展示場へ通じている



シヨールームの右半分は、ロフト風の展示スペース。左手奥がサービスコーナー



さらにレーシーに、さらにスタイリッシュに。

## RZ250RR専用オプション

ダブルアールと同時開発の専用オプションは4アイテム。店頭展示車にはこれらのオプションをフル装備して、本体とオプションのセット販売をおすすめください。



### ★シートカウル

レーサーイメージの、シングルシート風カウル。小物類の収納も可能です。

- カラー／白・赤用、  
白・青用
- 価格／¥15,000



### ★サブキャリア

ロングツーリングには欠かせないアクセサリ。積載重量は1.5kgです。

- 価格／¥4,500



### ★ナックルガード

林道ツーリングには必要不可欠なアイテムのひとつ。

- カラー／白、青
- 価格／¥1,000(左右セット)



### ★グリップエンドプラグ

まさにモトクロスラーのフィーリングをそのまま伝えるグリップエンドプラグ。

- カラー／黒
- 価格／¥900(左右セット)

### ★フロントフォークカバー

岩や木かぶにちょっとぐらいぶつけても、フロントフォークは心配無用。

- カラー／白
- 価格／¥3,000(左右セット)



### ★オーバーフェンダー

オフロード・ランに不可欠のオーバーフェンダー。耐久性も迫力も十分です。

- カラー／白、赤
- 価格／¥2,100

バイク・ファッションに気を配るお客さまが増えてきているなかで、もうひとつの傾向として表われているのが、ポルトオン・オプションによるドレスアップ化。とくに、スポーツバイクのお客さまに関してはその傾向が

著しく、個性化はもろろん本格化や機能性を求めてオプション装備するお客さまが、ここに来て急激に増加しています。今春、新発売したオンロードとオフロードの人気モデル、RZ250RRとDT200

Rのお客さまも例外でなく、オリジナル・オプションの人気は高まるばかり。本体にオプションをセットしたセールス・アプローチが、ヤングやアダルトのお客さまの間で話題を呼んでいるのです。

そこで今回はRZ250RRとDT200Rのオリジナル・オプションを再度、紹介しましょう。お店の展示車にもぜひこれらのオプションをフル装備して、お客さまへの浸透をお図りください。

# 個性化〈本格化〉のニーズに応えた RZ250RR&DT200Rのオリジナル・オプションのご案内。

# 自分だけのバイクに乗りたい!



# PARTS & ACCESSORIES

## ヤマハニューヘルメット

# georaima

**新登場!**



ヤマハ  
ベンチレーション  
システム



ヤマハ  
エアロダイナミクス  
テクノロジー

- 帽体..... 高品質FRP樹脂
- シールド..... 5段階開閉方式
- サイズ..... 55～56cm、57～58cm  
59～60cm、61～62cm
- 公認..... MFJ公認ヘルメット

georaima-B1



●カラー/ブラック  
(クリアシールド)

georaima-B2



●カラー/レッド  
(クリアシールド)

georaima-B3



●カラー/ホワイト  
(クリアシールド)

標準小売価格：24,000円

georaima-G1



●カラー/ブラック  
・レッド&ゴールド  
(スモークシールド)

georaima-G2



●カラー/ブラック  
・ゴールド&レッド  
(スモークシールド)

georaima-G3



●カラー/ホワイト  
・ブルー&ネイビー  
(クリアシールド)

georaima-G4



●カラー/ホワイト  
・レッド&ブラック  
(クリアシールド)

georaima-G5



●カラー/ホワイト  
・レッド&ブラック  
(スモークシールド)

georaima-G6



●カラー/ホワイト  
・ブルー&ゴールド  
(クリアシールド)

georaima-G7



●カラー/ホワイト  
・レッド&ゴールド  
(クリアシールド)

georaima-G8



●カラー/ホワイト  
・ブルー&ブラック  
(スモークシールド)

georaima-G9



●カラー/ホワイト  
&レッド  
(スモークシールド)

標準小売価格：29,000円



### ★アンダーカウル

風洞実験を重ねて新開発したアンダーカウルは、まさにレーサーのフォルムそのまま。

- カラー/赤ブロック用、青用
- 価格/¥18,000



### ★タンクバッグ

本体とマッチしたデザインの小物入れ。キーロック付きなので安心です。

- カラー/白のみ
- 価格/¥19,000



## オフロード・ランの機能性をより追求!

# DT200R専用オプション

モトクロス兼みの戦闘力を秘めたDT200Rは、オフロード・ファンに大人気。さらにマニアの心を奪うのが、機能性を重視したDT200R専用のオプション・グッズです。



### ★ハンドルプロテクター

「YAMAHA」のロゴが鮮やかなハンドルプロテクター。衝撃吸収力は抜群です。

- カラー/赤、黒
- 価格/¥2,100



### ★サブキャリア

ちょっとしたツーリングに便利なのが、荷物をくくりつけられるサブキャリア。

- カラー/黒
- 価格/¥3,000





# THE LATEST AD

生まれつき、サムライ。

**champ**

スーパーリング・スプリンター ▶ ヤマハ・チャンプ 新発売



HAVE A NICE RIDE!

ナイスライディングをよろしく。 ■ヘルメットを必ずお持ちください。 ■運転講習を受  
けましょう。 ■目撃者保護をお忘れなく。  
静岡県磐田市新貝2500 電話053833(2)1111

**YAMAHA**

ヤマハ発動機株式会社

〒436 静岡県磐田市新貝2500 TEL.0538331111

■これは4月下旬から5月上旬にかけて発売される「月刊プレイボーイ」「週刊プレイボーイ」「GORO」「ポパイ」の各誌に掲載する『チャンプ』の新発売広告です。

■ニューヨークのトップモデル、アッティラ・フォン・ソモギをキャラクターに、ロサンゼルス南、クリスタル・コーブ海岸での撮影。ソモギ自身、ロケーションの移動時にはお気に入りの『チャンプ』やカメラ機材をみずから運ぶなど、製作スタッフと意気のあったところを見せていました。ロケは有名なラグナビーチでも行なわれましたが、こちらではソモギのまわり

を女の子たちがとり囲んで撮影不可能。トップモデルの人気このほどをうかがわせていました。

■ソモギは、'63年6月3日、シカゴ生まれの20才、双子座。カリフォルニアのサンタバーバラ育ち。彼のエキゾチックな風貌は、ハンガリー出身の両親から受つたものだ。トレードマークの長髪は、12才の時から伸ばしているとか。得意のサーフィンははじめ、水泳、乗馬、テニスなどスポーツは万能。反面、読書や絵の趣味なども静かな面も持ちあわせたユニークな好青年です。